

The Reformation Herald

Volume 63, Number 4

| 編集記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
|---|
| 固く立つ一神を知る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 終末・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 格闘の時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 危機の時における真理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 衰退しつつある世界・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 恐れにまさる信仰・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 大路をまっすぐにせよ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| い。 迫る嵐・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |

まえがき

おそらく歴史上かつてなかったほどの激しいレベルで、この地球は巨大な火薬玉のように爆発しようとしています。心の平安、希望、助言を得るために本当に神様を求め、服する人々の数はほんのわずかです。

「わたしたちは、地上の歴史において非常に重要かつ興味深い時代に生存している。わたしたちは、これまで以上に信仰を必要としている。上からもっとしっかりつかんでいただかなければならない。サタンは、わたしたちに勝利するためにあらゆる力をもって働いている。なぜなら、サタンは、その働きをするために残された時間が少ないことを知っているからである。パウロは、自分の救いのために恐れおののいていた。わたしたちも約束がわたしたちを残していき、だれか足りないことがあらわれて、永遠の命に値しないことがあらわれることがないよう、恐れるべきではないだろうか。わたしたちは、目を覚まして祈り、狭い門を通るために魂を悩ませ努力して、奮闘すべきである。」1

わたしたちが毎年、祈祷週に参加することができることは、なんという特権でしょうか! わたしたちは、自分たちの唯一の力の源であるイエス・キリストを賛美し、キリストに嘆願するすべての機会をこれまで以上に大切にする必要があります。キリストは、天の法廷においていまだ、深い恵みによってとりなしの働きをしておられます。

迫る嵐というテーマの今年の読み物を通じてわたしたちは現在 直面している状況を理解し、信仰のみ言葉を読み、将来に 備える必要があります。

わたしたちは、今回の祈祷週の読み物について祈りながら考え、また、孤立していたり、家の外にでることができない人たちと 共有し、次の日を覚えておきましょう。

祈りと断食: 安息日12月10日 伝道献金: 日曜日12月11日

御霊がわたしたちの心に働きかけてくださることにより、わたしたちを個人的、及び集団の中の一人としての必要性に従って強めてくだいますように。

「あなたがたをキリストにある永遠の栄光に招き入れて下さったあふるる恵みの神は、しばらくの苦しみの後、あなたがたをいやし、強め、力づけ、不動のものとして下さるであろう。どうか、力が世々限りなく、神にあるように、アアメン」(ペテロ第一5: 10, 11)。

1 信仰と行い49

セブンスデー・アドベンチスト改革運動出版

「世界で最も欠乏しているものは人物である。それは、売買されない人…である」(教育54)。

編集者 L. トゥドロイユ

編集助手 B. モントローズ

デザイン D. コンセイサン

ホームページ: http://www.sdarm.org; **E-mail:** info@sdarm.org

Vol. 63, No. 4; Copyright © 2022 10月-12月

Illustrations: Creative Commons on pp. 4, 10, 28; Freepik on the front cover and pp. 3, 12, 14, 16, 20, 30–32; Good salt on p. 24; Sermonview on pp. 8, 9; Shutterstock on pp. 8, 11.

嵐が迫るとき

あなたがこの地上においていかなる場所で暮らしていたとしても、人生において少なくとも一度は嵐を経験することでしょう。雲が互いに広がり、空全体が暗くなり、その後、嵐が吹き荒れ、時として、嵐はすさまじい激しさを伴います。

地上の歴史上の最後の時代において、人生は、嵐の発達に たとえられることがあります。いたるところで様々なかたちの悪が 人々の心や頭脳に近づき、人々の霊的な状態はますます暗く なります。

しかし、わたしたちは、暗闇に取り残されていると感じる必要はありません。なぜなら、天の神がみ言葉のうちに完全な情報を与えてくださっているため、わたしたちは、現在、起こっていることや将来起こることについて驚く必要はないからです。神は、その豊かな恵みによって尊い希望のみ言葉をわたしたちに与えてくださっています。

「天使たちは、きたるべき運命について世界に警告し終わるまでは風を吹かせないように、いま戦争の風をひきとめている。 しかし、あらしは迫り、いまにも地上に吹き荒れようとしている。 神が、天使たちに風をひきとめている手をゆるめるようにお命じ になるその時、そこには筆にも口にも表わし得ない戦乱の光景 が展開するであろう。

聖書、実に聖書だけが、これらのことを正しく観察している。 聖書には、世界歴史の最後の大いなる光景、すでに前方に 影を投げて、その近づく足音に地をおののかせ、人々の心を恐 怖に震えあがらせている事件が明らかにされている。

『見よ、主はこの地をむなしくし、これを荒れすたれさせ、これをくつがえして、その民を散らされる。・・・・これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ。それゆえ、

のろいは地をのみつくし、そこに住むものはその罪に苦しみ、(英訳・荒れはてて)・・・・鼓の音は静まり、喜ぶ者の騒ぎはやみ、琴の音もまた静まった』(イザヤ24:1-18)・・・

『わたしは苦しみにもだえる。・・・・わたしは沈黙を守ることができない、ラッパの声と、戦いの叫びを聞くからである。破壊に次ぐに破壊があり、全地は荒され』

『わたしは地を見たが、それは形がなく、またむなしかった。 天をあおいだが、そこには光がなかった。わたしは山を見たが、 みな震え、もろもろの丘は動いていた。わたしは見たが、人はひ とりもおらず、空の鳥はみな飛び去っていた。わたしは見たが、 豊かな地は荒れ地となり、そのすべての町は、主の前に、その 激しい怒りの前に、破壊されていた』(エレミヤ 4:19,20,23-26)。

『悲しいかな、その日は大いなる日であって、それに比べる べき日はない。それはヤコブの悩みの時である。しかし彼はそれ から救い出される』(エレミヤ30:7)。

『さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたのうしろの戸を閉じて、憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ』(イザヤ 26:20)。 | ¹

キリストに完全に明け渡す人々には、神と天使による保護、神の永続的なご臨在の保証が与えられています。わたしたちは、嵐が恐ろしいほど勢いを増している状況を見ていますが、すべてに勝る神の偉大な御手―全宇宙をつかんでおり、またわたしたち一人一人のために十字架でくぎを刺された御手―に信頼すべきです。

引用:

教育212-214

固く立つ一神を知る

弟子たちがキリストの変貌を目撃したとき、その驚くべき光 景の最後に「彼らが目をあげると、イエスのほかには、だれも見 えなかった」と書かれている(マタイ17:8)。

「イエスのほかには」という言葉には、初代教会の歴史を特徴づけたいのちと力の秘訣が包含されている。弟子たちは最初、キリストのみことばを聞いたとき、自分たちには主が必要だと思った。彼らは主を求めて、見いだし、そして、主に従った。彼らは、宮で、食卓で、山腹で、また野で、主と共にいた。彼らはひとりの師を持つ弟子たちとして、毎日主から永遠の真理について教えを受けた。

救い主の昇天後も、なお、弟子たちには愛と光に満ちた神の臨在感があった。それは人格を備えたおかたの存在であった。彼らと共に歩き、語り、祈られた救い主イエス、また、彼らの心に希望と慰めをお語りになったイエスは、平和の福音を語っておられるあいだに、彼らから天へと上げられたのであった。天使たちの馬車が主を迎え入れたとき、主のみことばが下ってきた、「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ28:20)。キリストは人の姿で天に昇られた。

弟子たちは、キリストが神のみ座の前におられても、なお、彼らの友であり、救い主であられること、主の思いやりは変わらないこと、主は苦しむ人類といつまでも一体になられるということを知っていた。

主があがなわれた人々のために支払われた値を思い出させる、傷ついた手と足を神にお示しになって、ご自身の血の功績を神に献呈しておられることを、弟子たちは知っていた。そして、そのことが分かったとき、弟子たちには、主のために受ける非難に耐える力がわいた。彼らとキリストとの結合は、今や、主が人間の姿をとられて彼らと共におられたときよりも、もっと強かった。内住するキリストの光と愛と力は、弟子たちから輝き出て、それを見る人々の目を見張らせた。1

後に続いた暗黒時代

サタンは、聖書が人々に、彼の欺瞞を見分け、彼の力に 対抗できるようにさせることをよく知っていた。世の救い主でさえ 、み言葉によって、彼の攻撃を退けられた。キリストは攻撃され るたびに、永遠の真理の盾を用いて、「・・・・と書いてある」と言 われた。サタンのあらゆる誘惑に対し、キリストはみ言葉の知恵と力をもって対抗された。サタンが人々の上に権力をふるい、横領者的な法王権をうちたてるには、彼らを聖書について無知にしておかねばならなかった。聖書は神を高め、有限な人間の真の立場を明らかにする。それゆえに、その聖なる真理を隠し、抑圧しなければならない。ローマ教会はこの論法をとった。数百年にわたって、聖書の配布が禁止された。人々は聖書を読むことも、それを家に持つことも禁じられた。そして節操のない司祭たちや司教たちが、自分たちの主張を支持するためにその教えを解釈した。こうして法王は、地上における神の代表者、教会と国家に対する権威を与えられた者として、広く認められるようになった。

誤りを指摘するものが除かれたので、サタンは、思う存分に活躍した。法王権は「時と律法とを変えようと望む」と預言されていた(ダニエル書7:25)。このことは、さっそく実行に移された。異教から改宗した人々に、偶像礼拝の代わりになるものを与え、こうして彼らの名ばかりのキリスト教受容を促進するために、聖画像や聖遺物崇拝が、キリスト教の礼拝のなかに徐々に取り入れられた。ついに公会議の布告によって、この偶像礼拝制度が確立した(付録参照)。ローマ教会は、神を汚す活動の結びとして、僣越にも、偶像礼拝を禁じる第二条を神の律法から削除し、その欠けたところを補うために第十条を二つに分けたのである。

異教に譲歩する精神は、なおいっそう神の権威を無視する 道を開いた。サタンは、教会の清められていない指導者たちに よって、第四条をも変更し、神が祝福し聖別された昔からの安 息日(創世記2:2,3参照)を廃そうとした。そしてその代わり に、異教徒が「太陽の神聖な日」として守っていた祭日を高め ようとした。この変更は初めから公然と行なわれたのではなかっ た。最初の二、三世紀の間、すべてのキリスト者たちは真の 安息日を守っていた。彼らは熱心に神をあがめ、神の律法は 不変であると信じていたから、その戒めを熱心に清く守った。し かしサタンは、彼の代理者たちを用いて非常に巧妙に働き、そ の目的の達成をはかった。人々の注目を日曜日にひくために、 それはキリストの復活を記念する祝日とされた。宗教的礼拝 が日曜日に行なわれた。しかし、その日は娯楽の日とみなされ ており、安息日が従来どおり清く守られていた。

聖書が維持され、それに生きた

ローマの管轄外にあった国々には、幾世紀もの間、法王 教の腐敗にほとんど染まることなく存在したキリスト者たちの諸 団体があった。彼らは異教に囲まれていたために、時の経過に つれて、その誤りに感化された。しかし彼らは聖書を信仰の唯 一の規準とし、その真理の多くを固守し続けていた。これらのキ リスト者たちは、神の律法の永続性を信じ、第四条の安息日 を守っていた。この信仰と習慣を保っていた諸教会は、中央ア フリカに、そしてアジアのアルメニア人の中にあった。

しかし法王権の侵入に抵抗した人々のなかで、最も著しいのがワルド派 (ワルデンセス、ワルドウス派)であった。法王庁が存在しているまさにその国家において、その虚偽と腐敗は最も激しい抵抗に会った。数世紀にわたって、ピエモンテの諸教会は独立を保っていた。しかし、ついにローマが彼らに屈服を迫るときがきた。ローマの圧制に対して無益な抵抗を試みたあとで、これらの教会の指導者たちは、全世界が敬意を表しているように思われるこの権力の至高性を、しぶしぶ認めた。しかしながら、法王や司教たちの権威に対する服従を拒否した者たちもあった。彼らは、あくまでも神に忠誠を尽くし、信仰の単純さと純潔とを保とうとした。こうして分離が起きた。古くからの信仰を固守する者たちは、今や身を引いて、ある者たちは故郷のアルプスを去って外国で真理の旗をかかげ、また他の人々は、人里離れた谷間や岩角けわしい山岳地帯に逃れて、そこで自由に神を礼拝した。

幾世紀にもわたってワルド派のキリスト者たちが信じ、教えてきた信仰は、ローマから出た偽りの教義と著しい対照をなしていた。彼らの宗教的信念は、キリスト教の真の体系である書かれた神の言葉に基づいていた。しかし、世から隔離された寂しい隠れがに住み、家畜の世話や果樹の栽培に労苦の日々を送っていた素朴

な農民たちは、自分自身の力で、背信した教会の教義や邪説に反対する真理に到達したのではなかった。彼らの信仰は、新たに受けた信仰ではなかった。彼らの宗教的信念は、彼らの先祖から受け継いだものであった。彼らは、使徒時代の教会の信仰、すなわち、「ひとたび伝えられた信仰」を強く主張した(ユダ3節)。世界的な大都市に王座をかまえた高慢な法王制ではなくて、この「荒野の教会」がキリストの真の教会であり、世界に伝えるために神がご自分の民にゆだねられた真理の宝の保管者であった。

真の教会がローマから分離しなければならなかった主な理由の中に、聖書的安息日に対するローマの憎しみということがあった。預言されていたとおり、法王権はこの真理を地に投げ捨てた。人間の言い伝えや習慣が尊ばれる一方、神の律法は踏みにじられた。法王権の支配下にあった諸教会は、早くから、日曜日を聖日としてあがめるよう強要された。誤りと迷信が広くゆきわたっているさなかにあって、多くの者が一神の真の民でさえも一当惑し、真の安息日を守りながらも、日曜日にも仕事を休むほどであった。しかし法王教の指導者たちは、それでは満足しなかった。彼らは、日曜日を尊ぶばかりでなく、安息日を汚すことを要求した。そして、安息日を尊ぼうとする人々を、最も激しい口調で非難した。だれでも神の律法を平安のうちに守ろうとするならば、どうしても、ローマの権力外に逃れるほかはなかった。

ワルド派の人々は、ヨーロッパにおいて最初に聖書の翻訳を手にした人々の一つであった(付録参照)。宗教改革の数百年も前から、彼らは、自国語で書かれた聖書の写本を持っていた。彼らは混ぜ物のない真理を持っており、そのために、特に憎しみと迫害とを受けたのであった。彼らは、ローマの教会は黙示録の背教したバビロンであると宣言し、生命の危険をもかえりみず、その腐敗に抵抗するために立ち上がった。長期にわたる迫害のために、信仰の妥協をしたり、独特の主義を少しずつ放棄したりする者もあったが、真理に堅く立った人々もいた。

暗黒と背教の全時代を通じて、ローマの至上権を否定し、 聖画像崇敬を偶像礼拝だとして拒み、真の安息日を守ったワルド派の人々がいた。最も激しい弾圧のさなかで、彼らはその 信仰を保った。サボア人たちのやりに深手を負い、ローマの火 刑柱で焦がされようとも、彼らは神の言葉と神の栄光のために 、ひるまず堅く立ったのである。

そびえ立つ山々のかげに―それはいつの時代においても、 迫害され圧迫された人々の避難所であったが―ワルド派は隠れ場を見いだした。そしてここで真理の光が、中世の暗黒のた だ中にあって燃え続けた。ここで、千年以上もの間、真理の証 人たちは昔ながらの信仰を保持したのであった。

神は、ご自分の民におゆだねになった力強い真理にふさわ しい、極めて荘厳な避難所を、彼らのために備えておられた。 忠実な避難者たちにとって、山々はエホバの不変の義の象徴 であった。彼らは子供たちに堂々たる威厳をもって彼らの前に そびえ立つ山々を指さし、変化も回転の影もないおかた、その み言葉が永久の丘のように持続するおかたについて語った。 神は、山々を堅くすえ、それに力をお与えになった。無限の力 を持たれた神の腕以外のどんな腕も、山々をその場所から動 かすことはできなかった。同様に神は、天と地における神の 統治の基礎である律法を、堅くすえられた。人間は、手を伸ば して同胞の生命を奪うことはできよう。しかし、エホバの律法の 一つでも変えることができるならば、あるいは、神のみこころを行 なう者に対する神の約束を一つでも消し去ることができるなら ば、山々をその土台から根こそぎにして、海の中にやすやすと 投げ込むことができるであろう。神のしもべたちは、不動の山々 のように断固として神の律法に忠誠を尽くさなければならない。

低い谷間を取り巻く山々は、神の創造の力を絶えずあかしするとともに、神の保護の絶えざる保証であった。信仰のゆえに故郷を後にした人々は、エホバの臨在を無言のうちに表わしている大自然を愛するようになった。彼らは自分たちの境遇の苦しさをつぶやかなかった。ひっそりした山の中にあっても、彼らは寂しさを感じなかった。人間の怒りと残酷さからの避難所を備えていてくださったことを彼らは神に感謝した。彼らは、神の前で自由に礼拝ができることを喜んだ。時おり、敵の追撃を受けたときには、強固な山々が確実な防御となった。彼らは多くの高い断崖から、神を賛美する歌をうたった。そしてローマの軍隊は、彼らの歌う感謝の歌を沈黙させることができなかった。

純潔、単純、熱心が、キリストに従うこれらの人々の信条であった。彼らは、真理の原則を、家屋、土地、友人、親戚はいうに及ばず、生命そのもの以上に大切なものと見なした。彼らは、これらの原則を若い人々の心に植えつけようと熱心に努めた。青年たちは幼いときから、聖書を教えられ、神の律法の要求を神聖なものと見なすよう教えられた。聖書の部数は極めて少なかったので、その尊いみ言葉を彼らは暗記した。多くの者が、旧新約聖書両方のかなりの部分を暗唱できた。神を思う思いが、自然の荘厳な光景からも、また、日常生活のささやかな祝福からも、同じように連想された。幼い子供たちは、神を、すべての恵みとすべての慰めを与えてくださるおかたとして、感謝をもって仰ぐよう教えられた。

両親たちは、慈愛と愛情に満ちていたが、同時に非常に 賢明であって、子供たちをわがままにさせたりはしなかった。彼ら の前途には、試練と困難の生涯が、そしておそらくは殉教者と しての死が待っていた。それだから彼らは、子供のころから、困 難に耐え、統制に服し、しかも自ら思考し行動するように教え られていた。幼いときから彼らは責任を負い、言葉を慎み、沈 黙の賢明さを理解するように教えられた。敵に聞こえた軽率な 一言が、それを言った者だけでなく、多くの同信者の生命を危 険に陥れる恐れがあった。真理の敵は、餌食をさがしまわるお おかみのように、信仰の自由を求める者たちをつけねらっていた からである。

ワルド派の人々は、真理のために、世俗的な繁栄を犠牲にし、忍耐強く、自分たちの糧のために労苦した。山岳地帯の中の耕せる土地はすべて、ていねいに開墾された。谷間も、あまり肥えていない山の中腹も耕されて、作物を実らせるようになった。節約と厳しい克己とが、子供たちの受ける唯一の遺産としての教育の中に含まれていた。子供たちは、人生が訓練となるよう神は計画しておられること、そして自分たちの必要は、自分自身の労働と生活設計、配慮と信仰によってのみ満たせるということを教えられた。その過程は、労苦に満ち、疲れさせるものではあったが、しかし健康的なものであった。そしてこれは、堕落した状態にある人間にちょうど必要なことであって、神が人間の訓練と発達のために備えられた学校であった。

青年たちは、ほねおりと困難に慣れる一方、知性の開発も 怠らなかった。彼らは、自分たちのすべての能力が神のもので あって、そのすべてを神の奉仕のために開発し活用しなければ ならないことを教えられた。

ワルド派の教会は、その純潔と単純さにおいて、使徒時代の教会に似ていた。彼らは、法王や大司教の至上権を拒み、聖書を唯一最高で誤りのない権威として主張した。彼らの牧師たちは、ローマの尊大な司祭たちと異なって、「仕えられるためではなく、仕えるため」に来られた彼らの主の模範に従っていた。彼らは神の民を、神の聖なる言葉という緑の牧場、生きた泉に導いて、彼らを養った。

彼らは、人間の虚栄と誇りの記念物から遠く離れ、華麗な会堂や大寺院ではなくて山々のかげに、アルプスの谷に、あるいは危険な場合には、岩のとりでの中に集まって、キリストのしもべたちから真理の言葉を聞いた。牧師たちは福音を説くだけでなくて、病人を見舞い、子供たちを教え、誤った者をさとし、争いをしずめて一致と兄弟愛を育てるように努めた。彼らは、平和な時には人々の自発的なささげ物によって支えられていたが

、テント作りのパウロのように、各自は何かの職業を身につけていて、必要な場合には自分で生活できるようにしていた。

青年たちは牧師たちから教育を受けた。普通の学問の諸分野に注意が向けられる一方、聖書が主要な科目であった。マタイやヨハネによる福音書は、多くの使徒書簡とともに、暗記された。彼らはまた、聖書の写本に従事した。聖書全体の写本もあれば、短い部分的なものもあり、それには、聖書の解説ができる人々による簡単な聖句の説明がついていた。こうして神よりも自分たちを高めようとする人々によって長く隠されていた真理の宝が明らかにされた。

忍耐強くたゆまぬ努力によって、時には暗い洞窟の奥深くで、たいまつの光をたよりに、聖書は一節ずつ、また一章ずつ書き写されていった。こうして働きは続けられ、あらわされた神のみ旨は純金のように輝き出た。試練を経たために、神のみ旨がどんなにかいっそう輝かしく、明らかで強力なものとなったかは、その働きに携わった者たちにしかわからない。そして天使たちが、これらの忠実な働き人たちを取り囲んでいた。

サタンは法王教の司祭や司教たちを促して、真理のみ言 葉を誤謬や邪説、迷信などのつまらないものの下に隠しておこ うとした。しかし、それは、暗黒時代の全期間を通じて、驚くべ き方法で純粋に保たれた。それは、人間の印ではなくて、神の 刻印を帯びている。人間は、聖書の簡単、明瞭な意味をあい まいにし、それ自体が矛盾しているものであるかのように思わせ ようとして、たゆまず努力してきた。しかし神のみ言葉は、荒れ 狂う大海に浮かぶ箱舟のように、それをくつがえそうとするあらし にも動じないのである。金や銀の鉱脈は、鉱山の地中深くにあ って、宝を発見しようとする者たちはみな掘らなければならない ように、聖書にも真理の宝が隠されていて、それは心ひく熱心 に祈りつつ探究する者にだけあらわされる。神は聖書を、全人 類にとって幼年時代、青年時代、壮年時代の教科書となり、 全生涯にわたって研究すべきものとなるよう意図された。神は 聖書を、ご自分の啓示として人間にお与えになった。新しい真 理が明らかになるたびに、その真理の本源であられる神の品性 が新たにあらわされる。聖書を研究することは、人間を創造主 とのいっそう密接な関係に入れ、神のみこころをいっそう 明瞭に知らせるために、神がお定めになった方法である。それ は、神と人間とが交わる手段である。

ワルド派の人々は、主を恐れることが知恵の初めであることを認めていたが、それとともに、世界と接触して人間と実生活の知識を得ることが、心を広くし、知覚を鋭くするのに重要であ

ることを知っていた。青年たちのある者は、山の中の学校から、 フランスやイタリアの諸都市にある学校に送られた。そこには郷 里のアルプスにおけるよりはいっそう広範な、研究と思索と観察 の領域があった。こうして送り出された青年たちは、誘惑にさら され、罪悪をまのあたりに見、最も巧妙な邪説と最も危険な 欺瞞を主張する、サタンの狡猾な手下たちに出会った。しかし 彼らが子供のときから受けた教育は、こうしたすべてのことに対 する準備となる性質のものであった。

彼らは、どこの学校に行っても、心を打ち明けるような友をつくってはならなかった。彼らの衣服は、最大の宝すなわち聖書の貴重な写本を隠せるように作られていた。長年の苦心の結晶であるこれらの写本を、彼らはいつも身につけていて、怪しまれない時にはいつでも、真理を受け入れそうな人々に、その一部を注意深く手渡した。ワルド派の青年は、母親のひざもとで、このような目的のために訓育されたのであった。そして彼らは、自分たちの働きを理解し、それを忠実に実行した。3

わたしたちへの訴え

あなたの働きが何であっても、親愛なる兄弟姉妹がたよ、 主人に対してするようにそれをなし、最善を尽くしなさい。現在 の黄金の機会を見過ごし、何もせずに神が決してあなたに準 備をさせなかった働きにおける安逸と成功を夢見ている間に、 あなたの人生が失敗だと証明されるようなことがないようにしな さい。あなたの最も手近にある仕事をしなさい。それが伝統地 における危険と困難のただ中にあっても、その仕事をしなさい。 しかし、あなたにお願いする、困難や自己犠牲をつぶやいて はならない。ワルデンセスの人々を見なさい。彼らが、無知な 思いの中に福音の光が照り入るようにと考案した計画を見な さい。わたしたちはこの世の生涯において自分たちの報いを受 けることを期待して働くべきではない。かえって自分たちの目を しっかりと走るべき行程の終わりにある賞与に留めるべきである。 今は磁石の針が南北を指すように義務に対して忠実な男女、 自分たちの道が平らにされなくても、すべての障害が取り除か れなくても働く男女が必要とされている。4

- 1. 患難から栄光へ上巻62,63
- 2. 各時代の大争闘上巻45-47
- 3. 同上62-71
- 4. 教会への証5巻406〔強調付加〕



安息日2022年12月3日 デイビット・ジック著

終末

十字架上の苦しみにおいてキリストは「すべてが終った」と言われました。その時点までに伝えられてきたすべての預言が完結しました。全宇宙が見たのは、罪が全くないお方が「われわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え」られたことでした。そしてなお、それは人類にとって栄光に満ちたできごとでした。なぜなら、「その打たれた傷によって、われわれはいやされた」からです(イザヤ53:5)。「すべてが終わった。」という言葉は、悪人にとっては恐ろしい宣言でした。彼らは、救い主に勝利するという試みに失敗し、十字架の場所から逃げ去りました。神の民にとって「すべてが終わった」という宣言は、恐ろしい言葉ではありませんでした。この宣言は、救いを求めるすべての人々に恵み受ける機会を与えるものだったのです。

キリストはまもなく、再度、終わりを宣言なさいます。もう一度、何世紀にもわたって伝えられてきた預言が成就しようとしています。罪の中でおぼれているこの世に対する最後の警告が完結しようとしています。キリストが「すべてが終わった」と十字架上で述べられた時と同様に、その最後の警告が完結するときも、2種類の人々がいます。「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ。見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。わたしはアルパであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である。初めであり、終りである」(黙示録22:11-13)

このキリストの宣言に近づいている現在、わたしたちは皆、いずれのグループに属すべきかの選択をすることになります。預言に示されているしるしは、ますますすみやかに成就しています。創造主の面前において大胆に人類の罪が犯されています。わたしたちの欲望、怠惰、権力への憧れは、わたしたちの体だけでなくわたしたちを取り巻く世界を殺しています。人類が創造主を退けることにより彼の恵みがこの世から取り去られ、かつてなかったほどの規模の破滅が続いています。過去1000年間において自然災害が生じてきましたが、今日、わたしたちが直面している自然災害は過去になかった程の規模のものであり、更に悪化するばかりです。「人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう」(マタイ24:37)。自分たちが神よりもわかっていると思い、人類は自らの上に、災い、パンデミック、また自分たち自身が作り出した災害をもたらしています。

主が耐えられないほどまでに罪が大きくなる瞬間がおとずれます。「女の罪は積り積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる」(黙示録18:5)。人類のためのキリストのとりなしの働きが終了したという最後の宣言がなされるとき、あなたはいずれの側にたっていると判断されるでしょうか。わたしが子供のころ、カナダのパスリンチの小さな教会でこのメッセージを聞いたことを覚えています。預言は、明確に示されました。預言によって示される日、帝国の名前、預言の内容を表す図は今日、重要な意味をもっています。なぜなら、わたしはこれらによって、わたしの目の前で実現している預言上の事柄を正確

に理解することができるからです。わたしは、預言及び警告のメッセージを共有してくださった人々に本当に感謝しています。わたしたちの多くは預言を学んできましたが、わたしたちは今、それらが成就している状況を目撃しています。

終りの時と義

キリストの福音による改革の力を受け入れてきた人々にとって、最後の時代は理解できないほどの喜びです。彼らは、自分自身の義は何ら価値がないものであり、むしろ単なる「汚れた衣」(イザヤ64:6)であることを認識し、キリスト及び彼の義を自分のものとして受け入れます。キリストの力が彼らの人生に改革をもたらし、彼らの状態は神の意思と調和するようになります。彼らは、神のみ旨を行うことを喜び、神の律法が彼らの心の中にあります(詩篇40:8)。

神の民は神の恵みによる救いと神の力による改革を受け入れてきました。わたしたちと共有すべき預言を与えられたヨハネ自身は、わたしたちに彼らの力の源はイエス・キリストであると述べています。「しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである」(ヨハネ20:31)預言は、単に、救いの福音の延長です。結局のところ、聖書の最後で書かれている預言は、「イエス・キリストの黙示」です(黙示録1:1)。最後の時代に関する預言は、神の民を救う神の偉大な力を表しています。「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである」(黙示録1:3)。

終りの時が、神の民を恐れさせることはありません。わたしたちの救い主は、預言の成就のしるしをわたしたちが見たときに、どうするべきかを告げておられます。「これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから」(ルカ21:28)。わたしたちは、主を目の前で見ることを切望します。わたしたちを聖なる者にしてくださった救い主を賛美し、感謝することをわたしたちは切望しています。わたしたちは救いを受けるに値しないにもかかわらず、救い主はそれを与えてくださいました。最後の偉大な日において、この世に住んでいる人々は恐怖に陥るが、神の民は上を見上げ、次のように叫ぶと預言には書かれています。「その日、人は言う、『見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼

はわたしたちを救われる。これは主である。わたしたちは彼を待ち望んだ。わたしたちはその救を喜び楽しもう』と」(イザヤ25: 9)。

アドベンチストが預言を理解する目的は、火と硫黄の瞬間を目撃することではなく、救い主イエス・キリストとのより深い関係を築くことです。わたしたちは、自分自身に価値があるわけではなく、そのため救いを受けるに値しないことを理解しています。『わたしたちはふつつかな僕です。すべき事をしたに過ぎません』(ルカ17:10)。わたしたちは

「天よりの新しい生命がその人の内部に働かなければ、人は罪より聖潔へと変えられることはできない。

この力というのはキリストである。キリストの恵みのみが魂の命のない機能を生きかえらせて、これを神と聖潔へ引きつけることができる」ことを悟らなければなりません。¹

預言の光景において、主の僕たちは、神の民が終末の時に向かって旅をしています。最後の時代における恐怖が強まるに伴い、彼らはこの世からより離れていき、神に完全に服従するようになります。預言において天から吊るされる綱が示されています。彼らは、これらの綱を強くつかみます。

「わたしたちは、淵の底からわき起こる笑い声や歓喜の声を聞いたとき、恐怖を抱いた。わたしたちは、冒涜的な誓い、下品な冗談、そして卑劣な歌を聞いた。わたしたちは戦争の歌やダンスの歌を聞いた。わたしたちは、楽器による音楽、大きな笑い声を聞き、またその声がののしりや苦悩の叫びと入り混じっているのを聞き、これまで以上に狭くて困難な道を進み続けることを切望した。多くの時間において、わたしたちの全体重は綱によって支えられなければならず、その綱はわたしたちが進行するにつれて大きくなった...

わたしたちは一瞬、前進することをためらった。そのとき、わたしたちは『わたしたちの唯一の希望は、この綱に信頼することである。その綱はこれまで常に、困難な道においてわたしたちを支えてきた。その綱は、わたしたちを失望させることはない』と叫んだ。わたしたちは、依然としてためらい、落胆していた。その時、次の言葉を聞いた。『神がその綱を握っておられる。わたしたちは恐れる必要はない。』その言葉は、わたしたちの後ろで繰り返された。その後、『神はわたしたちを失望させることはない。神はこれまでわたしたちを安全に導いてきてくださった。』という声が聞こえた。」²

神に完全に従う義の民にとって終末の時は預言が完結する時点であり、主に会うことができるという確実な期待をもつことができる時です。わたしたちの周囲で生じている恐ろしい事柄は、神の恵みによる保護が、取り去られてきている結果です。しかし、これまでわたしたちは神に頼ってきており、神はパンと水はたしかであるという約束を与えておられます(イザヤ33:16)。

終りの時と悪人

終わりの時において悪い者たちはキリストの恵みを受けないため、非常に異なった経験をします。彼らは、神の民たちがなぜ、そのような生き方をするのかを理解することができません。彼らにとって救いは神秘です。「神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである」(コロサイ1:27)。彼らは、身の回りに起きている事柄を見て恐怖を抱きます。

聖書の最後の章のタイトルは、言語によって異なります。ドイツ語およびスラブ系の言語においては、例えば「啓示」と表現されているが、多くのラテン系の国の言語においては「アポカリプス:大災害」と表現されます。同じ書籍に書かれていることであるにもかかわらず、あなたのキリストとの個人的な体験に応じて、預言は救い主の啓示ともなり、または恐ろしい大災害となります。最後の時代の事柄が実現するとき、悪い者たちは、預言に基づく警告を発していた人々を思い出します。すべてが終わったという最後の宣言の直前において、最後の恵みの光が残されています。ある者たちは、福音のメッセージを受け取り、啓示されている救いに感謝し、義なる人々に加わります。しかし、悲しいことに、多数の者たちは最後の警告を拒み、大災害が彼らにふりかかります。

預言の光景において、引き上げられた神の憐れみを示していますが、実際には、引き上げたのは神ではなく、神を押しのけた人類です。人類は、自分自身の意志によって、被造物に向かってきました。被造物はいま、自分たちの創造主に、このお方はもはや自分たちの間で歓迎されていないと告げます。彼らは神を必要としていません。彼らは、自分たちが神よりも知識があると考えています。

罪の巨大さが、かつてないほどまで増しています。「しかし、この

ことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。その時、人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、無情な者、融和しない者、そしる者、無節制な者、粗暴な者、善を好まない者、裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快楽を愛する者」(テモテ第二3:1-4)。

以上の聖句において、使徒パウロは最後の時代について記しています。その時代においては、社会が神から完全に離れたため、自然自体が堕落によって崩壊しています。人間の体は異常をきたすようになっていますが、その原因は、病気または意図的な人体の破壊です。わたしたちの周囲のこの世界は、人間の欲望の重石に耐えることができなくなり、崩壊します。そして、社会が崩壊しつつあることを知り、目撃しているものの、彼らはそのまま前進します。悪人たちは、創造主によって課せられた制約から逃れたと宣言します。「この人々に自由を与えると約束しながら、彼ら自身は滅亡の奴隷になっている。おおよそ、人は征服者の奴隷となるものである」(ペテロ第二2:19)。

しかし、キリストは今、「すべてが終わった」と宣言されます。 悪人たちは、恐怖に陥り、彼らはもはや、何もすることができないということを悟ります。彼らは救いを拒み、悪の支配に完全に従いました。彼らは、残っている資源を求めて戦います。彼らの周囲の社会全体は崩れ去り、彼らは非難されるべき者を探します。なぜなら彼らは、自分の罪が自らを滅ぼしたという事実を認めることができないからです。

人々が創造主のご意志を拒絶した場合に社会および自然がどのような状態になるかについては、すでにみ言葉に記されています。「見よ、主はこの地をむなしくし、これを荒れすたれさせ、これをくつがえして、その民を散らされる。地は全くむなしくされ、全くかすめられる。主がこの言葉を告げられたからである。地は悲しみ、衰え、世はしおれ、衰え、天も地と共にしおれはてる。地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ。それゆえ、のろいは地をのみつくし、そこに住む者はその罪に苦しみ、また地の民は焼かれて、わずかの者が残される」(イザヤ24:1,3-6)。

人類の歴史において記録された災害や恐怖がどのようなものであろうと、これからこの世において生じる事柄とはくらべものになりません。 わたしたちはすでに、問題が発生していることを

目撃しています。大規模な疫病、自然災害、紛争の増大、 自然の破壊―これらはすべて、今後生じる事柄の始まりに過 ぎません。悪人たちにとってこの最後の時代は間違いなく「アポ カリプス:大災害」です。

憐れみの時

神の恵みの最後の時である現在、わたしたちは、恵みをつかむために最後の訴えがなされています。「わたしはまた、もうひとつの声が天から出るのを聞いた、『わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。』」(黙示録18:4)世から出て、そこから分離するのは、単純に恵みをつかむためです。わたしたちの創造主は、わたしたちが最高の賜物を受け取り、キリストの義を受けることを熱心に望んでおられます。「だから、彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる」(コリント第二6:17、18)。

「わたしたちは、最後の時代の危険の中を旅している。一歩ごとに注意深く確認し、わたしたちの偉大な指導者であるお方に従っているかを確認する必要がある。疑い、不信仰、浪費、犯罪がいたるところにある。自制心のたずなを手放し、確実な破滅に向かって崖を転がり落ちることは簡単である。毎瞬わたしたちを取り囲み、守ってくださる憐れみはなんと大いなるものであろう。」3

神の民は、キリストのうちにある神の義という賜物を受け入れてきました。「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする」(ヨハネ第一3:1-3)。

今や、この賜物を受けて、それによって改革されたわたしたちは、その賜物を他の人々と分かち合うべきではないでしょうか。わたしたちのメッセージは恐ろしいものではありません。わたしたちは、火と硫黄について宣べ伝えるわけではありません。わたしたちが自分たちの住んでいる時代を理解させるために、預言は記されました。わたしたちは何としても改革を必要としている世に、かつてなかったほど、キリストの義を伝える必要があります。

「わたしたちは、悪がはびこる時代に住んでいる。終わりの時代の危険がわたしたちの周囲に増大している。そして、悪がはびこるゆえに、多くの人々の愛が冷えている。もしすべての人が確信をもってイエスの許へ来て、信仰のうちにこのお方に信頼するならば、そのような事態が生じる必要はない。イエスの柔和とこのお方のへりくだりが大切にされるならば、すべての魂に平和と道徳的な力がもたらされる。

残された時間が短いということは、わたしたちが義を求め、キリストを自分の友にすることの動機づけとなる。しかし、それは大きな動機ではない。それは利己的なにおいがする。神の日における恐怖が、わたしたちが正しい行動をとることを強制する必要があるだろうか?そうあるべきではない。イエスは魅力的である。このお方は愛と恵みと同情に満ちておられる。わたしたちの友になり、人生行路の荒い道を共に歩もうと申し出ておられる。このお方はあなたに対して次のように述べられる。わたしは主なるあなたの神である。わたしと共に歩みなさい。わたしはあなたの道を光で満たそう。天の大君であられるイエスは、重荷と弱さとわずらいをもってご自分の許へ来る人々をご自身との連れ合いにまで引き上げようと申し出ておられる。このお方は彼らをご自分のいとしい子とし、最終的には彼らに諸王の帝国よりも価値があり、地上で最も高められた王の額に載った王冠よりも豊かな栄光を持つ嗣業をわたしたちに与えられる。」4

- 1. キリストへの道15
- 2. クリスチャン経験とエレン・G・ホワイトの教え182, 184
- 3. サインス ・オフ ・サ ・タイムス 1882年1月26日
- 4. レビュー・アンド・ヘラルド1881年8月2日

格闘の時

わたしたちの最初の両親がエデンの家を離れた悲しい時以来、信徒たちは、罪、苦しみ、悲しみが終わり、ついに天のわたしたちの家に帰ることができる日を待ち望んでいました。罪に満ちたこの世における生活は、すべての人が格闘しなければならない争い、試練、誘惑に満ちあふれています。ヨブが次のように書いていることについて考える必要があります。「女から生れる人は日が短く、悩みに満ちている」(ヨブ14:1)。ヨブの時代の後、ダビデは様々な試練に直面し、次のように叫びました。「わたしの魂は悩みに満ち、わたしのいのちは陰府に近づきます。」(詩篇88:3)。

歴史上、人々は肉体的困難、経済的な苦闘、人間関係の問題、思いや感情の戦い、健康や生存のための苦闘と組うちしてきました。しかし、これらすべての戦いには祝福された希望があります。信仰の手が弱いときもあれば、絶望や疑い、落ち込みと戦うときもありますが、わたしたちは、暗闇においても神のすばらしい約束をつかむことができます。

「暗闇の力が魂のまわりに集まり、わたしたちの視界からイエスを閉ざし、時には、雲が通り過ぎるまで悲しみと驚きの中で待つことしかできない。これらの時は、非常に厳しい。希望が失われ、絶望がわたしたちをとらえる。このような恐ろしい時代においてわたしたちは信頼することを学び、贖罪の功績にだけに頼らなければならない。またまったく無力で無価値なまま、自らの身を十字架につけられよみがえられた救い主の功績に投げ出さなければならない。わたしたちはこうする限り、決して滅びることはないー決して!]1

なんと素晴らしい約束でしょう!最も暗く、困難な時でさえ、またクリスチャンの歩みにおいて失敗した時でさえ、わたしたちが価値のない状態で、わたしたちの救い主であり、わたしたちのためにとりなしをしてくださるイエスは、わたしたちを退けられません。神は、わたしたちをありのまま、無力で価値のない状態で受け入れてくださいます。このお方は決して滅びるままになさいません。なぜなら

「主はあなたのすべての不義をゆるし、あなたのすべての病をいや」すからです(詩篇103:3) ―罪の恐ろしい病気でさえ。

この世の終わりの時代において、嵐の雲がわたしたちをとり まいていますが、イエスはまだわたしたちのためにとりなしておら れます。わたしたちは、自分たちの事情をイエスの許へたずさえ ていき、またすべてをこのお方にお委ねするならば、このお方は 最後までわたしたちと共にいてくださることを確信することができ ます。

「わたしたちが大いに必要としていることそれ自体が、動かすべからざる理由であり、わたしたちのために最も雄弁に語ってくれる。しかし、わたしたちは、こうした必要を満たし得るものとして神を求めなければならない。一彼は『求めよ、そうすれば、与えられるであろう』(マタイ7:7)と言われる。また

『ご自身のみ子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、

み子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか』

 $(\Box - 78:32)$ とも言われている。 I^2

「イエスの血は、背信者、反逆者、偉大な光と愛に対して 罪を犯した者のために、力と有効性をもってとりなしてくださる。 サタンはわたしたちを非難するためにわたしたちの右に立ってお り、わたしたちの弁護人であるお方は、わたしたちのために嘆願 するため、神の右に立っておられる。彼は、ご自分に委ねられ た裁判に一度も負けたことはない。わたしたちはその弁護人を 信頼することができる。なぜなら、このお方はわたしたちに代わっ て彼ご自身の功績を嘆願されるからである。ご自分の裏切りと 試練の前でなされたこのお方の祈りを聞きなさい。わたしたちの ためのこのお方の祈りを聞きなさい。なぜならこのお方はわたし たちを覚えておられるからである」³

「正しい者には災が多い。しかし、主はすべてその中から彼を助け出される。」(詩篇34:19)。

悩みの時

外洋での航海には多くの困難が伴います。多くの場合、海岸に近づくときに最大の困難に直面します。大型船や小型船で旅行していると、船酔いして陸地に戻りたいと思うことがあります。しかし、ようやく陸地が見えるようになると、旅の最後の部分はさらに波乱に満ちたものになることがよくあります。白波、海流、岩石の危険は、いつでも死または破壊を脅かす可能性がある。適切な場所に安全に着岸するためには、航路を設定し、船またはボートが着岸する前に十分に準備し、岸にぶつからないようにする必要があります。同様に、わたしたちの

人生の旅路では、罪と苦しみに満ちたこの世界にうんざりし、 ついに天国に行きたいと切望するかもしれません。前方を見て 、天国の岸辺に近づいていることに喜びを感じます。しかし、旅 の最後の部分には危険が伴うため、事前に十分な準備をして おく必要があります。わたしたちの進路と準備が、この先の戦い の時間においてどのように対処するかを決定します。乱流を伴 う最終着岸の準備はできているでしょうか?どのように準備すべ きでしょうか。

他の人々への警告

今日まだ人間が偉大な大祭司であられるイエスのみ許に来て、イエスが惜しみなく提供してくださる赦しと平安を体験する機会があります。恩恵期間が続く間、救いのメッセージを周囲の人々と分かち合うことによって、戦いの時に備えることができます。

くつろいでいる人、いわば眠っている人が沢山いる。彼らは、『預言が日曜休業令の施行を預言しているならば、休業令は確実に制定されるだろう』と言い、この結論に達した後、彼らは座って静かにその出来事を期待し、施行された日に神が彼の民を守ってくださるという考えで自分自身を慰める。しかし、神がわたしたちに委ねた働きをする努力をしない場合、神はわたしたちを救ってくださらない。わたしたちはサタンが有利な立場を築くことを阻止するために、忠実に〔義務を果たす〕用心深い兵士でなければならない。

わたしたちは神のみ言葉を熱心に研究し、神が闇の力を抑えてくださることを信仰をもって祈るべきである。なぜなら、そのメッセージはまだ比較的少数の人に伝わっているに過ぎないが、世界はその栄光で照らされるべきだからである。現代の真理一神の戒めとイエスの信仰一は、まだ、しかるべきほどに響き渡っていない。救いのために個人的な努力がはらわれたことがない多くの人たちがわたしたち自身の戸口の影にいる。

「わたしたちは仕事が終わるべき時を迎える準備ができてい ない

…安息日に関する論争は、人々にこの主題を明らかにし、真の安息日の主張が提示される機会が与えられるだろう。…

悪が増しているために、神の民がかつてないほど働くべき時代が到来した。神を恐れ、戒めを守る人々は、祈りだけでなく行動においても勤勉でなければならない。それによって、人々は、過去に聞いたことがない真理を知ることになる。この世は虚偽と不正によって圧倒されており、神の律法とイエスの純粋な宗教の保管者とされた人々は、光を輝かせることを決断しなければならない」4

習慣的に神に依存する

危機の中においてこそ、その人の本性が明らかになるといわれていますが、まさにそのとおりです。危機においてしっかりと前を向いて立ち向かうためには、日々、信仰によって神に頼る習慣を身につける必要があります。問題に直面した際の人間の通常の反応は、心配したり、不平をのべたり、争いをおこしたり、隠れたり、逃げたりすることです。これらのいずれかを行う代わりに、頻繁に繰り返すべき行動や習慣は、ひざまずいて信仰による祈りにおいて神と格闘することです。

「われわれの前にある苦悩と苦悶の時は、疲労と遅延と飢えに耐えることのできる信仰、すなわち、激しく試みられても落胆しない信仰を要求する。その時に備えるために、すべての者に恩恵期間が与えられている。ヤコブは、断固として屈しなかったために勝利した。彼の勝利は、しきりに願い求める祈りに力があるということの実証である。彼のように神の約束をしっかりとつかみ、彼のように熱心で忍耐強い者はみな、彼が勝利したように勝利するのである。自分をすて、神の前で心を悩まし、神の祝福を求めて熱心に祈り続けようとしない者は、それを受けることができない。祈りによる神との格闘―このことを知っている人がなんと少ないことであろう。熱烈な願いをもって、心から神によりすがり、全力を注ぎ出す人がなんと少ないことであろう。嘆願者の上に、言葉では表現することのできない絶望の波が押し寄せるときに、確固不動の信仰をもって神の約束にすがる者が、なんと少ないことであろう。

今、少ししか信仰を働かせていない者は、サタンの欺瞞の力と良心を強制する法令の下に屈してしまう危険が多分にある。そして、たとい彼らが試練に耐え得ても、常に神に信頼する習慣を養ってこなかったために、悩みの時には、さらに大きな苦難と苦悩に陥ることであろう。彼らは、自分たちが学ぶことを怠っていた信仰の教訓を、恐るべき失望のもとにあって学ばなければならなくなる。」5

わたしたちの罪が許された!

イエスが天の聖所で香炉が投げ出され、次の言葉が語られる時が近づいています。「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」(黙示録22:11)。

格闘の時、すなわちイエスによる天の聖所におけるわたした ちのとりなしがやんだ後に立ち続けるためには、神の恵みによっ て、わたしたちの罪が小羊の血によって除去されることが不可 欠です。

「不法をゆるされ、罪をおおわれた人たちは、さいわいである 。」(□-マ4:7)。

「彼らは、彼らの多くの罪をこれまで悔い改めたことを指し 示して、神の前で彼らの心を悩まし、『わたしの保護にたよって、 わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ』という救い主の約 束をこい求める(イザヤ書27:5)。彼らの信仰は、祈りが直ち に答えられないからと言って、なくなってしまわない。激しい不安、 恐怖、苦悩に苦しみながらも、彼らは祈り求めることをやめな い。彼らは、ヤコブが天使をつかまえたように、神の力を捕える。 そして、『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせませ ん』と彼らは心の中で叫ぶのである。

もしヤコブが、欺瞞によって長子の特権を得た罪をあらかじ め悔い改めていなかったならば、神は、彼の祈りを聞き、あわれ み深く彼の生命を保つことを、なさらなかったであろう。そのよう に、悩みの時においても、神の民は、恐怖と苦悩にさいなま れているとき、まだ告白していない罪を思い出すならば、彼ら は圧倒されてしまうことであろう。絶望が彼らの信仰を断ち 切り、彼らは神に救いを求める確信が持てなくなることであ **ろう。**しかし、彼らは、自分たちが無価値なことを深く感じては いるが、告白すべき罪を隠してはいない。彼らの罪は、前もつ てさばかれて、消し去られている。彼らは、罪を思い出すこと ができない。…

罪の言いわけをしたり、隠したりして、それを告白せず、許 されないまま、天の書に残しておく者は、みなサタンに負けて しまうのである。…

神の日のための準備を遅らせる者は、悩みの時やそれ以 後においては、準備することができない。 こうした人々は、すべて絶望である。

なんの準備もせずに、最後の恐るべき争闘に当面するこ れらの自称キリスト者たちは、絶望して、

激しい苦悶の叫びをあげて彼らの罪を告白する。そして悪人 たちは、彼らの苦悩をながめて勝ち誇るのである。このよう な告白は、エサウやユダの告白と同じ性質のものである。こ れをなすものは、罪そのものではなくて、罪の結果を悲しむので ある。彼らは真の悔い改めをしておらず、悪に対する嫌悪感が ない。彼らは刑罰を恐れて罪を認めるのである。そして、昔の パロのように、刑罰が取り除かれるとまた天に反抗するのである هٔ ا

「ヤコブは背を向けなかった。彼は神が憐れみ深い方であること を知っていたので、神の憐れみに訴えた。彼は過去の悲しみと

過ちに関する悔い改めを指さし、エサウの手からの解放を求め る嘆願をした。彼の嘆願は一晩中続いた。過去の過ちを振り 返るとき、彼はほとんど絶望するばかりであった。しかし、彼は自 分が神から助けを受けなければならないこと、さもなければ滅 びることを知っていた。彼は天使をしっかりとつかんで、自分が 勝つまで、苦痛に満ちた真剣な叫び声で嘆願した。義人はこ のようになる。彼らが過去の人生の出来事を振り返ると、彼ら の希望はほとんど沈んでしまう。しかし、それが生死に かかわることを悟り、彼らは熱心に神に向かって叫び、彼らの過 去の悲しみと多くの罪に関する謙遜な悔い改めを神に訴える 。…このように彼らの熱心な嘆願が昼夜神に捧げられる。」7 今こそ、神と和解し、わたしたちの罪の赦しを求める時です

。今こそ、わたしたちは神に対する完全な服従を妨げているも のを捨てる時である。

わたしたちの地に属する性質を失う

最後の格闘の間、すべての地に属する質、つまりこの地に 対する最後の付着が消滅します。わたしたちの日々のクリスチ ャンの歩みの中で、イエス、わたしたちの友人、わたしたちの兄 、わたしたちの仲介者、わたしたちのすべてであるイエスに目を 向けると、わたしたちも地に対する最後の付着を失います。わ たしたちがここで所有しているものは、わたしたちの必要、他の 人の必要性、そして真理のみ事業に役立つ道具にすぎません 。わたしたちは、土台があり、建設者と造り主が神であられる 都を待ち望んでいます。これは、わたしたちの生涯にわたる焦 点であるべきですが、格闘の時に、この地に対する物理的な 付着が消滅します。

「神と共に働く人々は、娯楽に従事したいという気質がない 。彼らは幸福と楽しみを求めない…贖いの大いなる働きこそ、 彼らが第一の考えることである。飲食、衣服、家や土地は二 次的なものになるのである。」⁸

「悩みの時に、家や土地はなんの役にも立たなくなる。その 時、彼らは怒り狂った群衆から逃げなければならない。そしてそ の時、彼らの財産は、現代の真理の働きを推進するために用 いることができないからである。聖徒たちが、悩みの時がやってく る前にすべての邪魔物を切り捨てて、犠牲によって神と契約を 結ぶことが、神のみこころであることを、わたしは示された。もし 彼らが、財産を祭壇の上において、なすべき務めについて、熱 心に神に祈り求めるならば、神は、これらのものをいつ処理す べきかを教えてくださる。そうすれば、彼らは悩みの時に自由に なり、負担となる邪魔物がなくなる。 I⁹

「われわれは今、神の約束を試すことによって、神をよく知

らなければならない。天使は心からの熱心な祈りをすべて記録している。われわれは、**神との交わりを怠るよりも、利己的な満足を求めることをやめるべきである**。」10

「ヤコブの生涯はまた、欺かれ、試みられ、罪に陥れられても、 真に悔い改めて神に立ちかえった者を、神は見捨てられない という保証でもある。サタンはこのような人々を滅ぼそうとす るが、神は天使を遣わして、危機の時に彼らを慰め、保護されるのである。サタンの攻撃は、激しく、断固たるもので、彼の 欺瞞は恐るべきものである。しかし、主の目はご自分の民に向けられ、その耳は彼らの叫びを聞かれる。彼らの苦悩は大きく、 炉の火は彼らを焼き尽くすように思われる。しかし、金を吹き分ける者であられる神は、彼らを火で練った金として取り出される。 この最も激しい試練の時における、神のその子供たちに対する 愛は、彼らの最も輝かしい繁栄の時と同じように、強く、やさしいのである。しかし、彼らは、火の炉に投げ入れられる必要がある。キリストの姿が完全に反映されるように、彼らの世俗的な ところが焼きつくされねばならない。」11

格闘の時は終わる

格闘の時に、神ご自身からくるすばらしい確証をもって終わる時が来ることを神に感謝しよう。

「義人は、まわりをとりかこんでいる悪人の手から救ってもらうように、心の苦しみの中に、夜も昼も神に向かって叫ぶ」¹²ときに、神は彼らの祈りと嘆願を聞き、大水のような神のみ声が天地を震わせます。建物は揺さぶられ、破壊されます。「数にして十四万四千の生きている聖徒たちは、その声を知って理解したが、悪人たちは、それを雷鳴と地震だと思った。神は時を告げられたときに、われわれに聖霊を注がれた。それで、われわれの顔は、モーセの顔が、シナイ山から下りてきたときに輝いたように、輝きはじめた。」¹³

主の使者はさらに次のように述べています。「わたしは、そのとき勝利の叫びを聞いた。大きく音楽のようなはっきりとした声であった。わたしは少し前まで大変な苦痛と束縛の中にいた一団の人々を見た。彼らの捕われている状況が変わった。輝かしい光が彼らを照らした。その時、なんと美しく見えたことであろう!心配と疲労の痕跡はすべてなくなり、すべての人の顔に健康と美しさが見られた。彼らの敵、彼らの周囲の異教徒たちは、死んだ人のように倒れた。彼らは、救出された聖なる者たちを照らす光に耐えることができなかった。この光と栄光は、イエス

が天の雲の中に見られ、忠実な人々が一瞬にして、またたく間に栄光から栄光へと変えられた時まで、彼らの上にとどまった。 そして墓が開かれ、聖徒たちが現れ、不死をまとい、 『死と墓に対する勝利』と叫んだ。

そして生きている聖徒たちと共に、彼らは空中で彼らの主に会うために引き上げられ、その間、栄光と勝利の豊かで音楽的な叫びがすべての不滅の舌から発せられた。」¹⁴

兄弟姉妹の皆さん、すばらしい未来が目の前にあります。しかし、わたしたちは天の岸辺へ向かう最後の段階において格闘の時代における嵐に備えるための準備ができているでしょうか。自分の人生を振り返るとき、目の前に迫っているこの時を迎える準備ができているでしょうか。わたしたちの周囲の魂を愛しているわたしたちは、人々に対し真剣に最後の警告を発していますか。神に完全に頼るのはわたしたちの習慣ですか、それとも地上の道具に頼っていますか。わたしたちはまったく価値がないと感じるかもしれませんが、許されないままでいるわけにはいきません。イエスの血はわたしたちの罪を消し去ります。今、そして毎瞬間、あなたはイエスのところにいますか。あなたは小羊の血で洗われていますか。小羊に従いましょう。イエスに目を向けると、すぐに過ぎ去ってしまう地上の事柄への執着は薄れ、取るに足らないものになります。格闘の時のための準備ができるように、神がわたしたちを助けてくださいますように!

- 1. 教会への証1巻309,310
- 2. キリストへの道130
- 3. *SDA*バイブル・コメンタリ*[E・G・*ホワイト・コメント*]7*巻948
- 4. エレン・G・ホワイト1888原稿502,503
- 5. 各時代の大闘争下巻395
- 6. 同上393, 394
- 7. 霊的な賜物3巻133
- 8. 神の娘たち16
- 9. 初代文集127, 128
- 10. 各時代の大争闘下巻396
- 11. 同上394
- 12. 生き残る人々117
- 13. 初代文集64
- 14. クリスチャン経験とIレン・G・ホワイトの教え178

危機の時における真理

「真理とは何か」(ヨハネ18:38)。

ローマ法務官は、目の前の囚人が答えを持っていると推測しました。しかし悲しいことに、彼はその答えを待つ気になりましせんでした。知らないというのは、…何という損失、ひどい損失でしょうか!彼は知っていたかもしれない!人となられた真理が彼の目の前におられましたが、ポンテオ・ピラトはそれを求めませんでした。わたしたちはどうでしょうか。「気がついていない(知らない)」(黙示録3:17)と、真の証人であられるお方は今日、わたしたち一人びとりに告げておられます。

ピラトにとって最悪だったのは、自分が命の危機に瀕していることを知らなかったことでした。彼は自分ではなく、イエスが危険にさらされていると思っていました。彼は自分が裁判官だと – 自分には危険が及んでいないと考えていました。何という大いなる欺瞞! おそらく、その態度が彼に永遠の命という代価を払わせたのです。その数時間で、彼は自分の永遠の運命を決定しました。彼の目の前に立っていたのは、囚人に似た謙虚な姿の「道であり、真理であり、そして命」でした。(ヨハネ14:6)。彼は囚われ人のように見えたが、解放者でした。「この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。」(ヨハネ1:4)。しかし、ピラトはそれらをみな失ってしまったのです。彼は知りませんでした。…

もし、あなたがそのような状況におかれたとしたら、どうしたでしょうか。あなたはどんな手段を取ってでも、真理を求め、従いましたか?

ところで、あなたは今危機に瀕しているでしょうか。わたしはどうでしょうか。もしわたしたちが、知らずにピラトのように、だれかほかの人が危険にさらされていると思い込んだとしたらどうでしょうか。主はわたしたち全員に次のようにいわれるかもしれません。「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……しかし、それは今おまえの姿が隠されている」(ルカ19:42)。

親愛なる兄弟たち、今日、わたしたちは知らなければ

なりません!明日では遅すぎるかもしれません!わたしたちは、わたしたちを自由にする真理を知る必要があります(3八ネ8:32)。

最大の危機—STRAIGHT AHEAD!

「統治者や政治家たち、責任と権威の地位を占めている人々、あらゆる階級の心ある男女、一すべての者は、…そこに何か決定的な大事件がいまにも起ころうとしており、世界が**途方もない危機**の渕に臨んでいることを認めている。」¹

「わたしたちに迫っている紛争は、これまでに目撃され た中で最も恐ろしいものになるであろう。」²

「『かつてなかったほどの悩みの時』が、まもなくわれわれの前に展開する。それだからわれわれには、一つの経験― 今われわれが持っておらず、また多くの者が怠けて持とうとしない経験―が必要なのである。現実の困難というものは、予想したほどではないということがしばしばある。しかし、

われわれの前にある危機の場合は、そうではない。どんなに生々しく描写しても、この試練の激しさには、とうてい及ばない。この試練の時に、人間は、みな、自分で神の前に立たなければならない。」³

良い知らせは、神がわたしたちの救いを約束し、そのための代価を支払ってくださったということです。「悲しいかな、その日は大いなる日であって、それに比べるべき日はない。それはヤコブの悩みの時である。しかし彼はそれから救い出される」(エレミヤ30:7)。しかし、ヤコブがそのような恐ろしい問題に打ち勝ったように、わたしたちも打ち勝たなければなりません!

「ヤコブは、断固として屈しなかったために勝利した。彼の勝利は、しきりに願い求める祈りに力があるということの実証である。

彼のように神の約束をしっかりとつかみ、彼のように熱心で 忍耐強い者はみな、彼が勝利したように勝利するのであ る。14

神はわたしたちの救いのために十分な備えをし、無限

の代償を支払ってくださいましたが、すべての神の子供たちが救われるわけではありません。 あなたはどうですか? わたしはどうでしょう。

「自分をすて、神の前で心を悩まし、神の祝福を求めて熱心に祈り続けようとしない者は、それを受けることができない。祈りによる神との格闘―このことを知っている人がなんと少ないことであろう。熱烈な願いをもって、心から神によりすがり、全力を注ぎ出す人がなんと少ないことであろう。

嘆願者の上に、言葉では表現することのできない絶望の 波が押し寄せるときに、確固不動の信仰をもって神の約 束にすがる者が、なんと少ないことであろう。 |5

恐ろしい警告です!主が今日、わたしたちが目を覚ま して準備することを助けてくださいますように!

尊い真理

真理を理解して受け入れるならば、真理は尊いものである。それは救いの計画を通してわたしたちに無償で与えられた命、神の命をもたらします。「このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである」(ヨハネ第一1:2)。真理を知ることはわたしたちを特権的な立場に置きます。わたしたちは全体像を見て、原因を理解し、結果を予測し、正しい選択をすることができます。そして最後に、快適で望ましい結果を楽しむことができます。

「真理とは何か?」ピラトは 2,000 年前に尋ねましたが、今日、この質問はこれまで以上に 重要になっています。もし彼が聞く時間をとっていたならば 、どのような結果になっていたでしょうか。恐らく、彼はニコデ モのように、率直で衝撃的だが人生を変える答え – 彼の 魂の救いを明らかにする答えを聞いたことでしょう。しかし、 彼はそれをしませんでした。…

今こそわたしたちの時です。自問する必要があります。 わたしは本当に自分自身について、自分の魂について真 実を知りたいと望んでいるだろうか。もし、本当に飢えかわ いているならば、わたしたちは満ち足りるようになります。わ たしたちにとって、それは、関係する事柄や原則についての 知識よりも重要です。**真理は、イエスであり**、彼は神の御子、人の子であられます。このお方はあらゆる事柄に関す る真理を有しているだけでなく、彼ご自身が真理であられ ます。さらに、わたしたちが彼を受け入れるなら、このお方 は福音であり、あらゆる危機の解決策であり、救いであられ、わたしたちにご自身を提供されるのです。 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、 命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行く

ことはできない」(ヨハネ14:6)!

虓

善悪の知識の木の時以来、欺瞞は真理と織り交ぜられてきました。昨日「フェイクニュース」と分類されたものは、明日は「証明された科学」として発見されるかもしれません:その逆もあり得ます。「真実(真理)は広場に落ちた」(イザヤ書 59:14)。

サタンは反逆した当時から、偽りにいくらか真理を混ぜてきました。「彼は嘘つきであり、嘘の父である。」彼は、神は罪を罰しないと大胆に嘘をつきます(創世記3:4)。そして、「大声に呼ばわって」主は救うことができないと偽ります(列王記下18章)!彼の欺瞞を受け入れることにより、人性は堕落し、真理と相いれなくなりました。

ル 12:2)。危機の時、この失明はさらに深刻です。危機に 南面するとったしたちはストレスを感じ、腎く思慮深く行

わたしたちには「見る目があるが見え」ません(エゼキエ

直面すると、わたしたちはストレスを感じ、賢く思慮深く行動する代わりに、即座に反応する傾向があります。わたしたちは、恐れや感情に惑わされがちであり、それらは現実を歪めます。わたしたちは「巨人」しか見ておらず、「わたしたちには自分が、いなごのように」見えます(民数記13:33)。わたしたちには「見る目があるが見え」ません(エゼキエル 12:2)。

危機におけるストレスは、冷静な検討のために必要な時間を短くしてしまいます。わたしたちは逃れるために、問題を迅速に解決し、物事を成し遂げるように迫られています!そしてその過程で、真理が失われる可能性があります。…終りになってようやく冷静になって危機が過ぎ去って

初めて、過ちや欺瞞を識別し、真理をより明確に見ることができるようになります。ときには、この精査をすることは苦痛であり、悲しいものです。わたしたちは、真理が自分の考えていた場所とは異なる場所にあり、自分たちが愚かに行動したことを認識します。「心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか」(エレミヤ17:9)。

したがって、危機における解決策を自分自身の中に探す必要はありません。わたしたちは、真理の泉に行かなければなりません!最初に始める、第一の真理―最も重要な真理―は、次です。

どなたが神か?

はじめに、「彼らの先祖の神」、「わたしは、有って有る者」であられるお方は、イスラエル人に知られていませんでした(出エジプト記

3:14)。しかし、彼らは、紅海においてそのお方を知り始めました!彼らは今、エジプトの誇りと栄光の残骸を見ました:彼らを抑圧した者たちの死体が海岸沿いの波によって運ばれました。エジプトが頑固に反対する立場をとったため、神の御手によって消し去られるのを見ました。彼らは雲と火の柱を目撃し、また巨大な水の壁が主の声に従う光景を見ました!彼らは、そのお方の力強い御手が奇跡の働きを行っていることを目撃しました!それこそが彼らに明らかにされた真理でした。「わたしは、有って有る者」であられる偉大なお方が、彼らのただ中におられました。それは、愛情深い父、熱心に助けようとされる方であり、全能であられました!彼らは信仰によって、主を知るために手を伸ばしました。「信仰によって、人々は紅海をかわいた土地をとおるように渡ったが、同じことを企てたエジプト人はおぼれ死んだ」(ヘブル11:29)。

次のことはさらに尊いものです!主は「真理」であり、「いのち」であられます(ヨハネ14:6)。彼は生命の源そのもの、すべての被造物の源です。神は想像し得るあらゆる問題の解決策であり、人々が逃げるときの「道」であると同時に、義の道でもあります。「わたしによらなければ、だれも父のもとに来ることはでき」ません(ヨハネ14:6)。彼は完全にすべてを支配しておられ、何ものもこのお方を驚

かせることはできません。このお方を知り、このお方を受け入れることによって、その子らは命と救いを受けます。 なぜなら、このお方を知ることは永遠の命だからです (ヨハネ17:3)。「御子を持つ者はいのちを持」ちます (ヨハネ第一5:12)。

「神を知ることは、神を愛することである。」6

困難なとき、わたしたちは彼をよりはっきりと見ることができます。彼の愛と救いの力は、それ自体が本物であることを証明しています。主はこう言われました。

「悩みの日にわたしを呼べ、わたしはあなたを助け、あなたはわたしをあがめるであろう」(詩篇50:15)。

わたしはだれか?

危機における2番目の重要な真理は、わたしたちが何 者であるかということです。

「品性がわかるのは、危機においてである。」⁷

ペテロは自分自身を知っていると思っていましたが、キリストが逮捕されるという危機の中で、自分自身を発見しました。否定した言葉がまだ彼の唇に残っていた時に、彼はイエスの方を見ました。そこで彼はイエスをかつてないほどに見ました。「思い出が朝のように彼を襲った。まちがいを犯している弟子たちに対する救い主のやさしいいつくしみ、その親切と寛容、そのやさしさと忍耐一何もかもが思い出され・・・・」

ペテロのように、イエスを鏡にすることで、わたしたちは自分の完全な無力さと心の中の残酷な悪意を理解するかもしれません。なんとつらい、しかし救いを与える体験でしょうか!ペテロの場合と同様に、わたしたちを悔い改めと改心へと導くのは、この発見です。彼のように、わたしたちは新しい被造物になりますが、そのようになるのはただ、わたしたちが自分自身の悲惨な状況を認識し、自分自身を憎むときだけです。

ダニエルは次のように告白しました。「主よ、正義はあなたのものですが、恥はわれわれに加えられて、今日のような有様です…これはわれわれがあなたにむかって罪を犯したからです。あわれみと、ゆるしはわれわれの神、主のものです。これはわれわれが彼にそむいたからです。」(ダニエル9:7-9)。使徒パウロは次のように認めている。

「わたしの内に、すなわち、わたしの肉の内には、善なるものが宿っていないことを、わたしは知っている。なぜなら、善をしようとする意志は、自分にあるが、それをする力がないからである。」(ローマ7:18)。理解するということは救われるということにおいて重要です!

神の性質を見るとき、わたしたちは自分の真の状態を認めます。「わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか」 (ローマ7:24)。「また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる」 (イザヤ58:9)。

主は救うためにここにおられる

「主はどこにおられますか」(列王記下2:14)。無力で絶望した魂が主を求めるときはいつでも、主は答えてくださいます。「わたしはここにいる!」。彼はいつでもわたしたちと一緒にいたいと思っておられますが、危機の時はなおさらです。彼は「翼にいやしを伴って」救うためにそこにおられます。これこそが神のいのちの本質です。「わたしは在る」とは、神がどこにでもいることを意味します(詩篇139)。神は、困っているご自分のすべての子供たちと共におられる。「ヤコブは眠りからさめて言った、「まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった」(創世記28:16)。それがわたしたちにとっての真理です。

紀元前 6 世紀、バビロンの燃える炉の前で、3 人の若いユダヤ人は確信を持ってこう言いました。「もしそんなことになれば、わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。」(ダニエル3:17)それが真理でした!そこにいて、彼らと一緒にその火の中を自由に歩いていたのは、王の怒りや燃える炎ではなく、親愛なるイエスの姿でした。使徒パウロは次のように確認しています。「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。」(ヘブル7:25)。わたしたちは、それ以上に必要なものがあるでしょうか?

わたしたちには大多数がついている!

シリア軍に包囲されたドタンの危機の中で、神の人エリシャは召使に次のように説明しました。「恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから」(列王記下6:16)。その危機における真理とは何だったでしょうか?ここで、彼らはシリア人に包囲され、見た目には、逃げ道がありませんでした。しかし実際には、彼らは天の天使たちの強力な保護軍に取り囲まれていました。彼らではなく、シリア人が危険にさらされていたのです!

神は反対者を救うことはおできにならない

もう一つの厳粛な真理は、

「エジプト人にとって、暗黒の壁であった雲は、ヘブル人には全陣営を照らし、彼らの行く手に光を投げかける大いなる照明の光であった」ということです。9

「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」 (ヤコブ4:6)。彼はすべての人を助けたいと思っておられます。彼はすべての人の救いのために代価を支払われました。しかし、彼は彼と彼の恵みを受け入れる人だけを救うことがおできになります!

故意に神に反対し続け、神の恩寵を嘲笑し、危機の際に神がわたしたちと共におられると思い込むことは、おそるべき欺瞞です!サウル王の人生における最後の危機(サムエル上 15:22, 23)。

また、イスカリオテのユダの生涯の最後の危機(マタイ27: 3-5)について覚えましょう。確かに、辛抱強い主は、わたしたちの選択によって決定される正義の執行をしばしば延ばされます。しかし、わたしたちが反対し、反逆し、霊的に怠惰な道を歩み続けるならば、確実に破滅に陥ります!「わたしは呼んだが、あなたがたは聞くことを拒み、手を伸べたが、…あなたがたはわたしのすべての勧めを捨て、わたしの戒めを受けなかったので、わたしもまた、あなたがたが災にあう時に、笑い、あなたがたが恐慌にあう時、あざけるであろう。…その時、彼らはわたしを呼ぶであろう、しかし、わたしは答えない。ひたすら、わたしを求めるであろう、しかし、わたしに会えない」(箴言1:24-28)。

ほんのわずかな者だけが勝利する

「しかし、今日、真理を公言する人々のうち、ごく一部の人だけがそれによって聖化され、救われる。」¹⁰ 「このように、あとの者は先になり、先の者はあとになるであろう」(マタイ20:16)。「エジプトを出た大軍の大人のうち二人だけがカナンの地に入った。彼らのしかばねは、その罪のために荒野に散らばった。」¹¹

「神の日のための準備を遅らせる者は、悩みの時やそれ以後においては、準備することができない。こうした人々は、すべて絶望である。」¹²

これはわたしたちが愛する救い主にとって最も痛ましい 真理にちがいありません!多くの人にとって、彼の無限の 犠牲は無駄になるのです!

わたしたちの役割:信じる! (「見えないかた」を見る)

常に危機の状態におかれていた使徒パウロ (2 コリント 11:23-29 を参照)

は、わたしたちに次のような重要なことを伝えています。「わたしたちは、見えるものにではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである」(コリント第二4:18)。

「彼は王の憤りをも恐れず、エジプトを立ち去った。彼は、見えないかたを見ているようにして、忍びとおした。」(ヘブル11:27)。言い換えると、「見る」ということは彼を信じることであり、また彼の存在のすべて、および行為のすべてを信じることです。「義人は、信仰によって生きる」(ヘブル10:38)。「信仰とは、望んでいる事がらの実体(具体的な現実、保証)であり、まだ見ていない事実の証拠である」(ヘブル11:1欽定訳)。わたしたちは信仰によって彼を受け入れます(ヨハネ1:12)。わたしたちは信仰によって彼の義を受けます(ピリピ3:9)。わたしたちは信仰によって改革を経験します(コリント第二3:18)。わたしたちは信仰によって改革を経験します(コリント第二3:18)。わたしたちは信仰によって改力れます(エペソ2:8)。

敵がわたしたちの前に置くものすべてから目を背けるべきです!人々が言いたいことをいったとしても、気にする必要はありません。親愛なるイエスを見ましょう。イエスは「真理」であり、わたしたちの目では見ることができない強大な

全宇宙、被造物の司令官であり、わたしたちを癒し、救う ことができます。

「ひとたびキリストの上に注視が定まると、そこに生活の中心が見いだされる。青年の熱意と気高い献身と情熱はここに真の目的を見いだすのである。…

義務をつくすことが楽しみとなり、犠牲を払うことがよろこびとなる。キリストの栄えをあらわし、キリストのようになり、キリストのために働くことが、人生の最高の抱負となり、最大の歓喜となるのである。」13

ちょうど紅海における危機のように、「クリスチャンの生涯は、しばしば危険にさらされ、義務を果たすことが困難に思われる。われわれは、前方には滅び、後方には束縛や死が迫っているように考える。それにもかかわらず、神のみ声は明らかに『前進せよ』と語っている。われわれの目が、暗黒を貫いて見ることができなくても、また、冷たい波を足もとに感じても、われわれはこの命令に従わなくてはならない。」14

「このお方を信じる信仰によって、わたしたちは従うことができるようにされる。「信仰は愛によって働き、魂をきよめる。そして、信仰のあるところにはそれに相応する従順、すなわちキリストのみことばの忠実な実行が伴う。」¹⁵そうであれば、「万人の中で最も偉大な方」であるお方に目を向けましょう!

こう記されている

わたしたちが、自分の救い主を「見て」「知る」こと、また自 分自身の弱さを自覚するのは、記された神のみ言葉によってです。キリストは、「と書いてある」によって勝利なさいま した(マタイ4:4,7,

10)。このお方は敵と議論なさいませんでした。「彼は試みにかかわりあおうとなさらなかった」¹⁶

同じことができるように、主がわたしたちを助けてくださいますように。「誘惑に攻撃された時には、周囲を見たり、自己の弱さを見たりしないで、み言葉の力を見なさい。その力はすべてあなたのものである。」¹⁷ "

「『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る 一つ一つの言で生きるものである』。キリストに従う者にとっ て、神に仕えることと世俗の事業を進めることとが両立しな い場合がしばしばある。おそらく神のあるはっきりした戒めに従えば生活の手段がたたれるようにみえるであろう。…だがこの世において信頼できる唯一のものは神のみことばである。……神のみことばの力を知るとき、われわれは食物を手に入れたり、自分のいのちを救ったりするためにサタンのそそのかしに従うようなことをしない。われわれの唯一の質問は、神のご命令は何か、神の約束は何かということである。これがわかれば、われわれはそのご命令に従い、その約束に信頼するのである。」18

黙している

山々に囲まれ、海に阻まれ、後ろからエジプト軍に迫られたイスラエル人は、武器を持たず、差し迫った死しか見ることができませんでした。信仰によって、モーセは彼らのただ中におられる主を見て、こう言いました。「主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙していなさい」(出エジプト記14:14)。「勝利は主による」(箴言21:31)。「黙していなさい」一彼らにとってもわたしたちにとっても、これは実に最も困難な信仰の実践の一つです!真に休息する者(ヘブライ語で安息日)として、主を完全に信頼することにより、主を敬い、必要な準備をしましょう」

落胆する余地はない

イエスは次のように言われました。「わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ16:33)。

キリストは失敗せず、落胆もされませんでした。彼が打ち勝ったように、わたしたちも打ち勝つことができます。彼の恵みはわたしたちにとって十分であり、彼の力は弱さの中において完全になります。「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる」(ピリピ4:13)。わたしたちは彼を信頼することにより、「わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちはこれらすべての事において、勝ち得て余りがある」ものにされる(ローマ人への手紙8:37)。

この方にすがりついて成功する!

勝利は強大な征服者によって保証されています!わ

たしたちは神の意志に服従するだけでよいのです。そのとき、「もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか」(ローマ 8:31)。

最後の激しい危機の夜、正義の太陽が昇り、彼の民は彼と共に栄光へと引き上げられ、精錬され、輝き、贖い主の美しさを反映します!「神は愛である」という最大の真実が神のすべての創造物に響き渡ります!わたしたちが主と協力できるようになるために主が助けてくださり、主がわたしたちを完全に救うことができるようにし、信仰が栄光になるまで日々、主と共に歩み、わたしたちが天の宮で主に受け入れられますように。アーメン。

- 1. 教育212〔強調付加〕
- 2. 教会への証6巻407
- 3. 各時代の大争闘396,397〔強調付加〕
- 4. 各時代の大争闘上巻395
- 5. 同上
- 6. 各時代の希望上巻5
- 7. キリストの実物教訓388
- 8. 各時代の希望下巻210
- 9. 人類のあけぼの 上巻334
- 10. 教会への証1巻608
- 11. 同上609
- 12. 各時代の大争闘下巻394
- 13. 教育350
- 14. 人類のあけぼの上巻334
- 15. 青年への使命196
- 16. 各時代の希望上巻210
- 17. 同上135, 136
- 18. 同上132

衰退しつつある世界

わたしたちは今日、どの時代に生きているでしょうか? 「マルティン・ルターの時代、彼のところに来て、『わたしたち はあなたの聖書ではなく、御霊が欲しい』と言った人たちがいた 。マルティン・ルターは彼らに対し、次のように述べた、『わたしは あなたの霊を鼻先で叩く』」。どんなふりをしたとしても、彼らは 神の子供ではなかった。」¹

過去において、義人はローマとつながることは不可能だと感じていました。そのため、この誤謬の体制に対する対立は、命と財産を危険にさらすことによってのみ維持されていましたが、多くの人々は真実のために戦い、分離したままでいるだけの勇気をもっていました。彼らにとって聖書の真理は、富や名誉、さらには命そのものよりも貴重なものでした。彼らは、真理が迷信や嘘の詭弁に埋もれているのを見るのに耐えられませんでした。宗教改革者たちは神のことばを手に取り、人々の前で真理の基準を引き上げ、聖書を注意深く調べ、主が明らかにされたことを勇敢に宣言しました。彼らは、神への忠誠のために最も残酷な死を遂げましたが、キリストの血によってわたしたちのために自由と特権を獲得しました。

かつて山や谷に反響し、地震のようにヨーロッパを震わせたマルティン・ルターの 95

カ条の提題を思い出してみましょう。この一人の勇敢な人は、 キリストの高貴な信奉者によって構成される霊的な軍隊を呼び起こしました。そして彼らが擁護した真理は、炎、拷問、投獄、または死によって沈黙させられることはありませんでした。そして今日においても、その高貴な殉教者の軍隊の残りの者の声は、ローマの権力と背教―パウロが予見した不法の者―終わりの時代に激化することになるものを明らかにしています。

「さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの来臨と、 わたしたちがみもとに集められることとについて、あなたがたにお 願いすることがある。霊により、あるいは言葉により、あるいはわ たしたちから出たという手紙によって、主の日はすでにきたとふれまわる者があっても、すぐさま心を動かされたり、あわてたりしてはいけない。だれがどんな事をしても、それにだまされてはならない。まず背教のことが起り、不法の者、すなわち、滅びの子が現れるにちがいない。彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する。わたしがまだあなたがたの所にいた時、これらの事をくり返して言ったのを思い出さないのか。そして、あなたがたが知っているとおり、彼が自分に定められた時になってから現れるように、いま彼を阻止しているものがある。不法の秘密の力が、すでに働いているのである。ただそれは、いま阻止している者が取り除かれる時までのことである」(テサロニケ第二2:1-7)。

真理が薄められる

初代教会は、福音の単純さを離れて堕落し、異教の儀式と習慣を受け入れたときに、聖霊と神の力を失いました。そして、人々の良心を支配するために、世俗の権力の援助を求めました

。その結果が、法王権であって、それは、国家の権力を支配し、それを教会自身の目的、特に「異端」の処罰のために用いた教会でした。

「初代教会は、福音の単純さを離れて堕落し、異教の儀式と習慣を受け入れたときに、聖霊と神の力を失った。そして、人々の良心を支配するために、世俗の権力の援助を求めた。その結果が、法王権であって、それは、国家の権力を支配し、それを教会自身の目的、特に「異端」の処罰のために用いた教会であった。米国が獣の像を造るためには、宗教的権力が政府を支配し、教会が、教会自身の目的を遂行するために、国家の権力を用いるようにならなければならない。

教会が世俗の権力を握った場合は常に、教会はそれを自

分の教義に反対する者を罰するために用いてきた。世俗の権力と提携することによってローマの模範に従ったプロテスタント諸教会も、良心の自由を束縛しようとする同様の欲望を表わした。英国の国教会が、長年にわたって反対者を迫害したことは、そのよい例である。十六世紀と十七世紀にわたって、幾千という非国教徒の牧師たちが、教会を去らなければならなかった。そして、牧師も信徒も、多くの者が罰金、投獄、拷問、殉教の憂き目にあったのである。

初代教会が政府の支持を求めるようになったのは、背教の ためであった。そして、これが、法王権一獣一の発展する道を 開いた。『まず背教のことが起り、不法の者・・・・が現れる』とパ ウロは言った(テサロニケ第二2:3)。そのように、教会内の背 教が、獣の像を造る道を開くのである。聖書は、主の再臨に 先だって、初期の時代の状態に似た宗教的堕落の状態が起 こるといっている。『終りの時には、苦難の時代が来る。その時、 人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、 高慢な者、神をそしる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖 を汚す者、無情な者、融和しない者、そしる者、無節制な者、 粗暴な者、善を好まない者(善人を好まない者(欽定 訳))、裏切り者、乱暴者、高言をする者、神よりも快楽を 愛する者、信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるで あろう』(テモテ第二3:1-5)。『しかし、御霊は明らかに告げ て言う。後の時になると、ある人々は、惑わす霊と悪霊の教と に気をとられて、信仰から離れ去るであろう』(テモテ第一 4:1)。サタンは、『あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、ま た、あらゆる不義の惑わしとを見もって働く。そして、『自分らの救 となるべき真理に対する愛を受けいれないと者はみな、『彼らが 偽りを信じるように、迷わす力』に陥ってしまうのである(テサロ ニケ第二2:9-11)。こうした不信の状態に達したときに、初 期の時代におけると同様の結果が生じるのである。

プロテスタント教会内の大きな信仰の差異は、どんなに努力しても一致を図ることはできないということの決定的証拠であると考える人が多い。しかし、ここ数年にわたって、プロテスタントの諸教会内において共通の教義を土台として合同しようとする気運が強く動き出している。このような合同を達成するためには、たとい聖書的見地からどんなに重要なものであっても、すべての者が一致しない問題点は、必然的に放棄されねばならなくなる。」²

獣の像の設立

啓示者3ハネは次のように述べています。

「わたしはまた、ほかの獣が地から上って来るのを見た。それには小羊のような角が二つあって、龍のように物を言った。そして、先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣を拝ませた。また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた」(黙示録13:11-15)。

猶予期間が終わる前に獣の像がつくられます。黙示録 13章のこの2番目の獣は、先の獣のすべての権威を彼の前で 行使し、致命的な傷が癒された先の獣を地球とその住民に拝 ませます。「また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、 貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その 右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、 物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その 獣の名、または、その名の数字のことである」(黙示録13:16, 17)。

これは、バビロン(混乱)から召された神の民が、印を押される前に通過する最後の試練です。神の律法を守り、偽りの安息日を受け入れることを拒否することによって神への忠誠を示す者は皆、主なる神エホバの旗の下に身を置き、生ける神の印を受けます。対照的に、天に起源をもつ真理を放棄し、土曜日(7 日目一創造時に確立された神の聖なる休日)の代わりに日曜日(異教の太陽神の週の最初の日)を受け入れる人々は、獣の印を受けます。

三重の連合

さらに啓示者は次のように述べています。「また見ると、龍の口から、獣の口から、にせ預言者の口から、かえるのような三つの汚れた霊が出てきた。これらは、しるしを行う悪霊の霊であって、全世界の王たちのところに行き、彼らを召集したが、それは、全能なる神の大いなる日に、戦いをするためであった」(黙示録16:13,14)。

「宗教界の指導者たちの教えは、不信仰への道、心霊術への道、そして神の律法に対する軽べつへの道を開いてきた。

だから、今日のキリスト教界に存在する不法の恐るべき責任は、これらの指導者たちにあるのである。

ところがこの階層の人たちは、急速に広がっている堕落は、 主としていわゆる「キリスト教的安息日」を汚すことにその原因 があるのだから、日曜日遵守を強制することが社会道徳を大 いに向上させるであろうと主張する。この主張が特に強調され るのは、真の安息日の教理が最も広く宣べ伝えられてきたアメ リカにおいてである。アメリカにおいては、最も目だった重要な道 徳的改革の一つである禁酒禁煙運動が、しばしば日曜日遵 守運動と結びつけられる。日曜日遵守運動の主張者たちは、 自分たちは社会の最高の利益を促進するためにほねおってい ると称し、彼らとの協力を拒む者は、禁酒禁煙運動と改革の 敵であると非難される。しかし、誤謬を助長する運動が、それ 自体は善である働きと結合しているからといって、その誤謬を 支持してよいということにはならない。われわれは、健全な食物 にまぜることによって毒を隠すことはできても、それが毒であるこ とには変わりないのである。それどころか、毒と気づかれないため に、それだけいっそう危険なものとなる。虚偽を、それをもっともら しく見えるようにさせるに足るだけの真理と結合させることが、サ タンの策略の一つである。日曜日遵守運動の指導者たちは、 人々が必要としている改革を提唱し、聖書と調和している諸 原則を提唱するかもしれない。しかし、その中に、神の律法に 矛盾する要求が含まれているかぎり、主のしもべたちは彼らと 手をつなぐことはできない。彼らが神の戒めを捨てて人間の戒 めを置いたことは、どんな理由によっても正当化できないのであ る。

サタンは、霊魂不滅と日曜日の神聖化という二つの重大な誤りを通して、人々を彼の欺瞞のもとに引き入れる。前者は心霊術の基礎を置き、後者はローマとの親交のきずなを作り出す。合衆国の新教徒は、率先して、心霊術と手を結ぶために淵を越えて手を差しのべる。彼らはまた、ローマの権力と握手するために深淵を越えて手を差し出す。この三重の結合による勢力下に、アメリカはローマの例にならって良心の権利をふみにじるのである。」."3

背教したプロテスタントの汚れた霊は、神の律法に反する 法王制度を強制するための布告を用い、また一方の手でローマの権力をつかみ、他方の手で心霊術をつかんでいます。アメリカ合衆国は憲法によってプロテスタント及び共和制をとりましたが、以上の同盟の影響下において、憲法上のすべての原則を拒否するように誘導され、その代わりに法王の誤謬と虚偽を 広めるための措置をとります。そのような事態が生じたとき、サタンの魅惑的な力が発揮されること、また、終わりの時が近づいていることを認識することができます。

ローマ主義者、プロテスタントの人々、及び世俗主義者は いずれも力を伴わない、形だけの敬虔さを受け入れ、これらの 同盟のうちに、待望の千年期の壮大な到来を認めるのです。

プロテスタントとカトリックによる迫害の焦点

イエスは、ご自分の弟子たちに次のようにあらかじめ警告なさいました。「人々に注意しなさい。彼らはあなたがたを衆議所に引き渡し、会堂でむち打つであろう。またあなたがたは、わたしのために長官たちや王たちの前に引き出されるであろう。それは、彼らと異邦人とに対してあかしをするためである。彼らがあなたがたを引き渡したとき、何をどう言おうかと心配しないがよい。言うべきことは、その時に授けられるからである。語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中にあって語る父の霊である。兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、また子は親に逆らって立ち、彼らを殺させるであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる」(マタイ10:17-22)。

ローマ主義―そのためにキリストの宗教がほぼ全滅したもの ―のためのプロテスタントの迫害は、プロテスタントと法王制が 団結するときに最大限に効力を発揮します。

米国の主要な教会が、共通の教義の点で団結し、国家に影響を与えて法令を制定し、国家がその教会を支持するように仕向けるとき、プロテスタントのアメリカはローマの階級制度と一体となり、その教会に反対する人々に民事罰を課すことになります。「いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける」(テモテ第二3:12)。

改革のためのわたしたちの深い必要性

わたしたちは地球歴史の終末に近づいており、この世の慣習を追求している時間はありません。わたしたちの焦点は、聖書がどのように述べているかを理解するために神のみ旨を探求し、神がわたしたちに与えてくださった光に従って歩むことです。わたしたちの傾向、習慣、慣行が優先されてはなりません。神のみ言葉がわたしたちの基準です。

「若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか。 み言葉にしたがって、それを守るよりほかにありません。わたしは 心をつくしてあなたを尋ね求めます。わたしをあなたの戒めから 迷い出させないでください。 わたしはあなたにむかって罪を犯す ことのないように、 心のうちにみ言葉をたくわえました」 (詩篇 119:9-11)。

わたしたちが継続的に霊的な機能を用いるのであれば、霊 的な小人である必要はありません。あれやこれやとただ祈るだ けでは、十分ではありません。霊的な事柄に対して注意を集 中させることに慣れる必要があります。

「こういうわけで、今やキリスト・イエスにあり、肉によらず、霊によって歩く者は罪に定められることがない。なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、霊に従う者は霊のことを思うからである。肉の思いは死であるが、霊の思いは、いのちと平安とである。なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。また、肉にある者は、神を喜ばせることができない。

しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである。もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない。もし、キリストがあなたがたの内におられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに生きているのである。もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう。それゆえに、兄弟たちよ。わたしたちは、果すべき責任を負っている者であるが、肉に従って生きる責任を肉に対して負っているのではない。なぜなら、もし、肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬ外はないからである。しかし、霊によってからだの働きを殺すなら、あなたがたは生きるであろう」(ローマ8:1-13欽定訳)。

運動は、強さと活力を生み出します。多くの自称キリスト教徒たちは、両方の世界を失いつつあることに気づきます。中途半端で半世俗的なクリスチャンは、部分的に救われるのではなく、完全に失われるのです。

結論

あなたを神から遠ざけるものはすべて放棄しなければなりません。

「多くの人は富を偶像にしている。金を愛し富を欲することはかれらを悪魔につなぐ黄金のくさりである。ある人々は名声や世的な栄誉を神としている。また、なんの責任も負わず、利己的な安楽な生活を偶像にしている人もいる。けれども、こうしたどれいのきずなは断ち切らねばならない。わたしたちは、なかば神に、なかば世につくことはできない。全く神のものでなければ神の子供ではないのである。」"4

「善ときよきを望むのは正しいことであるが、そこでとどまるならなんの役にも立たない。クリスチャンになりたいと望みながら、滅びていく人が多い。かれらは神に自分の意志をささげるところまでこないからである。つまりかれらは、いまクリスチャンになることをえらばないからである。」"5

恩恵期間の扉がまだ開いているうちに、時間を大切にしましょう!一瞬たりとも無駄にする時間はありません。終わりの時は近いのです。まもなく、真理を伝えるために利用できる大通りは、右も左も危険に囲まれます。なぜなら、主の使者はわたしたちが今できることを、その時点ではできないようにするために道をふさぐからです。わたしたちは仕事を進めなければなりません。闇の力は、下の方から発せられる強烈なエネルギーを伴って働いており、邪悪な者の歩みは、今、眠っている人々を追い抜こうとしています。

わたしたちは今、伝えることのできる警告があり、すみやかになすべき働きがあります。しかし、まもなく、わたしたちが想像しているよりも事態は困難になります。わたしたちが正しい道を歩み、わたしたちの指導者であるイエスを見つめ、忍耐強く勝利へと進むことにおいて主がわたしたちを助けて下さいますように

- 1. 説教と講和1巻 22
- 2. 各時代の大争闘下巻162-164 [著者強調]
- 3. 同上349,350
- 4. キリストへの道55
- 5. 同上61

恐れにまさる信仰

わたしたちは嵐の到来について考えるとき、それをキリストの 再臨と関連づけることがよくあります。わたしたちの願い、希望、 霊感はすべて、主であり救い主であられるお方が来られるとい う祝福された希望に集中しています。しかし、イエスの来臨に ついて話すとき、わたしたちは何について尋ねているでしょうか。 わたしたちが真のメシヤの二度目の来臨を早めると言うとき、そ こには再臨ほど輝かしいものではない出来事がいくつか含まれ てきます。聖書は、その日の前に起きる困難な時代を思い起 こさせます。「わざわいなるかな、主の日を望む者よ、あなたが たは何ゆえ主の日を望むのか。これは暗くて光がない。人がし しの前を逃れてもくまに出会い、また家にはいって、手を壁につ けると、へびにかまれるようなものである」(アモス5:18, 19)。

最後の嵐は軽々しく受け止められるべきものではありません。イエスは、わたしたちの理解を超えた恐ろしいことがおきると述べておられます。「それから彼らに言われた、『民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。また大地震があり、あちこちに疫病やききんが起り、いろいろ恐ろしいことや天からの物すごい前兆があるであろう。しかし、これらのあらゆる出来事のある前に、人々はあなたがたに手をかけて迫害をし、会堂や獄に引き渡し、わたしの名のゆえに王や総督の前にひっぱって行くであろう』」(ルカ21:10-12)。

入念な準備をしていたにもかかわらず、これらの光景が実際に目撃されるとき、どのような事柄が起きるでしょうか。「現実の困難というものは、予想したほどではないということがしばしばある。しかし、われわれの前にある危機の場合は、そうではない。どんなに生々しく描写しても、この試練の激しさには、とうてい及ばない。」¹

このコロナウイルスの時代において、それがどのようなものであるかをわたしたちは少し味わいました。あなたがこれを読んでいる頃には、コロナウイルスの危機は終わっている可能性があります。しかし他方で、そのウイルスはすでに 2

年以上猛威を振るい続けており、衰える気配はなく、むしろ絶えず変化しています。それはあたかも、危険なライオンから逃げたものの、熊に出くわすようなものです。そして、ギリギリ逃げ切ったと思って、近くの家に入り、ドアを閉め、暖炉のうえに手を置いたところへどに噛まれたというようなものです。

今年2月初旬の時点において、全世界で3億9000万人近くの人々がコロナウイルスに感染したという情報があり、1.5%程の人々が病気で死亡しています(しかし、わたしは個人的に、2~3名の亡くなろうとしている人たちが、死の直前でコロナウイルスに感染した際、彼らがコロナウイルスによる死亡として統計の中に数えられたことを知っています)。しかし、それでもなお、この病気は深刻さを示しており、近親者や友人が亡くなると、その病気はより個人的なものになります。

病気の影響を受けている場所に住んでいると、皆、その病気に関するニュースに夢中になります。もしあなたが戦争で引き裂かれた場所に住んでいるならー現在この惑星にはそのような場所がたくさんありますが一あなたは病気について心配するよりも、軍事行動について心配するようになります。災害が発生した直後の場所に住んでいると、避難所を見つけることができるかが心配になります。また、干ばつの影響を受けている場所にいると、食べ物について悩むようになります。したがって、わたしたちにとって本当に重要な質問は、それらすべてのデータを個人的にどのように取り扱うべきか、ということです。

恐るべき時代に生きている

わたしたちの身の回りで実際に何が起きているのでしょうか。わたしたちが知っているこの世界において何が起こっているのでしょうか。「地に住む者よ、恐れと、落し穴と、わなとはあなたの上にある。恐れの声をのがれる者は落し穴に陥り、落し穴から出る者はわなに捕えられる。天の窓は開け、地の基が震い動くからである」(イザヤ24:17, 18)。

預言的な観点から本当に重要なことは、なぜこれらの事柄すべてが生じているのか、ということではなく、聖書において破壊的な風や危険な旋風として描かれているこれらの出来事が、なぜ実際にはより穏やかなのかということです。わたしたちは、これらすべてが生じなければならず、また主がこられる時の前に更に悪化するということを知っています。これらの出来事を制しているのは何でしょうか?

「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない」(黙示録 7:3)。 悲しいことに神を信じると自称している人々は準備が整ってい

ないため、憐れみ深いわたしたちの創造主は、わたしたちにもう 少しの時間を与えて下さっており、災害が頂点に達することが ないように制しておられます。

科学者たちは、何が起こっているのかを説明するために最善を尽くしており、パンデミックから気候変動まで、これらすべての出来事の解決策を見つけようとしています。しかし、神を理解していなければ、真の原因を特定することも、真の解決策を見つけることもできません。「抑制している神の御霊は、今も世から引き上げられつつある。ハリケーン、嵐、暴風雨、火事、洪水、海と陸における災害が立て続けに発生する。科学はこれらすべてを説明しようとしている。神の御子の再臨が近づいていることを示しているしるしは、わたしたちの周囲で強まっているが、それらは真の原因以外の何かのせいにされている。神の僕が印を押されるまでの間、四方からの風を抑制している天使を人間は認識することができない。しかし、神が風を解き放つよう天使に命じるとき、書き物では表現することができないほどの争いが生じるようになる。」2

この恐ろしい時に、すべての教会員はかつてないほど個人的に試されることになります。わたしたちの基本的な信念は、外部から、また悲しいことに内部からも疑義に問われることになるでしょう。「教会の個々のメンバーの信仰は、あたかもこの世に他の人がいないかのように試されることになる。」3 これは、日曜休業令の布告に関する最後の嵐だけをのべているのではありません。明らかにそれまでの準備の問題があります。最終試験とは、つまり、最終試験にすぎないのです。この問題は、これまでも、またこれからも、神のご意志対人間の意志です。「人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる」(マルコ7:7)。

わたしたちは目の前の本当の問題に本当に気づいているでしょうか?それとも、わたしたちはすべての問題において妥協できると考えていて、日曜休業令が発令されたとき、直ちに信心深い状態になると思っているのでしょうか?
「危機は今、わたしたちに迫っている。戦いは、**聖書によるキリスト教**と人間の伝統に基づくキリスト教との間で繰り広げられることになる。現在のわたしたちの眠たげな状態には、罪深い

危機における勝利

怠慢がないだろうか。I⁴

わたしたちは暴風が吹き荒れるのを見ているが、神は、わた したちに予備的なテストを与えることにより、何を成し遂げようと しておられるのでしょうか。重要な問題は常に、人間の意志を 天の御父の思いやりあるご意志に委ねることでした。

「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう」(ヤコブ4:7)。服従とは意思と思いの問題です。「神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、**すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ**」(コリント第二10:5)。サタンの狙いは常に、わたしたちの考え方を支配することでした。「サタンは、聖徒たちの苦難をみて喜んだとは言っても、それで満足していなかった。彼は、肉体だけでなくて、**心をも支配したい**と思った。」5

わたしたちは、戦争、疫病、そして災害―人為的および自然的なもの―が迫害と混ぜあわされているのを目の当たりにしていますが、神はわたしたちがこれらすべてに耐えうるようにするために、どのように助けるご計画でしょうか。「ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか」(ヘブル10:25)。わたしたちがその日が近づいているのを目撃しているとき、それは、これらすべての預言が文字通り成就する時に集会を続け、お互いに励ましあうための方法を見つける必要があるということを意味します。わたしたちの父らもそのような集会が禁じられたときに、したことと同じ方法です。

これこそまさにアメリカ合衆国が設立された理由です。すな わち、政府からの干渉を受けることなく集会をするという神から 授けられた権利を与えることでした。もし、合衆国憲法がこの 権利を認めなかったとすれば、その憲法は誤った方向に進んで いたことでしょう。そのため、彼らは権利章典を追加しなければ ならなかった。権利章典は、その冒頭部分において次のように 宣言しています。「国会は、宗教の設立に関する法律や、その 自由な活動を禁止する法律をつくってはならない。」6 その修正第1条は、「人々が平和的に集会を行う権利 を認 めているが、その権利は、平和的な方法によって政府の行動 に抗議することを含んでいます。わたしたちは、比較的平和な 生活を送っている間は、集まって互いに励まし合うという特権を 利用する必要があります。なぜなら、やがて、感謝せずになお ざりにしてきたすべての機会を悔やむ時が来ようとしているから です。わたしたちは、一緒に集まる代わりに、家にいることを選 択したり、励ましあうことを回避する別の方法をみつけようとし たりするかもしれません。そのとき悲しいことに、それは往々にし てまったく大した理由ではなかったことを悟るようになるでしょう。

だれが恐れているか?

わたしたちのすべての希望が頂点に近づき、預言された出来事が目の前で展開するのを見るとき、わたしたちは世の側に何を期待できるでしょうか。「畑に出てはならない、また道を歩いてはならない。敵はつるぎを持ち、**恐れが四方にある**からだ」(エレミヤ 6:25)。だれがその恐怖を悪化させているでしょうか。「多くの人のささやくのを聞くからです。

恐れが四方にあります。『告発せよ。さあ、彼を告発しよう (そうすればわれらも告発しよう)』と…言います」

(エレミヤ20:10)。わたしは、人を恐怖におとしいれるニュースの見出しを読んだことがあるが、実際のニュースを読んでみると、見出しほど悪い内容は書かれていませんでした。これは単にニュース報道だけにあてはまるわけではありません。最近、イギリスの医療雑誌を読んでいるときに、衝撃的な見出しを読みました。しかし、詳細を読むと、そこには違った構図がありました。非常に多くの人々は、見出しを読んだだけで、絶え間ない恐怖をいだいています。

人々は、恐怖に陥ったとき、何をしようとするでしょうか?独立宣言の起草に貢献したアメリカ建国の父の 1 人であるベンジャミン・フランクリンは、かつて次のように述べています。「一時的な少しの安全を得るために重要な自由をあきらめる人は、自由と安全のいずれも得ることはできない。」人は、ひとたび恐れを感じると、何でも喜んで手放してしまいます。恐怖の背後にある力はどのようなものでしょうか?「死の恐怖のために一生涯、奴隷となっていた者たちを、解き放つためである」(ヘブル2:15)。わたしたちが死を恐れるとき、わたしたちは奴隷となり、生きるためのいくらかの安全を得るために、いかなるものでも放棄します。人は、死を恐れなくなったとき、その人はもはや奴隷ではないのです。

人がこの種の恐怖を感じ続けた場合、最終的にはどのような状態になるでしょうか?「しかし、おくびょうな者、信じない者、忌むべき者、人殺し、姦淫を行う者、まじないをする者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者には、火と硫黄の燃えている池が、彼らの受くべき報いである。これが第二の死である」(黙示録21:8)。これは明確に、贖われた人々は、このような恐怖に勝利したことを示しています。

恐怖ではなく、信仰

神の民は、ときに恐怖と苦闘しているでしょうか。 父祖ヤコブは神に懇願しました: 「どうぞ、兄エサウの手からわたしをお救いください。 わたしは彼がきて、 わたしを撃ち、 母や子供たちにまで及ぶのを恐れます」 (創世記32:11)。 彼が直面してい

たことの多くの事柄は、自ら招いたことでしたが、その事柄は恐怖をもたらしました。解決策は、その事柄を祈りにおいて主に委ねることでした。彼がそのようにしたことにより、ヤコブは別の人、まったく恐れのない人になりました。

わたしたちが周りの状況を見て恐れを感じ始めるとき、神が与えて下さる最善の解決策は何でしょうか?イスラエルの子らが、エジプト軍が迫ってくるのを見たとき、片側には逃げることのできない険しい崖があり、目の前には海がありましたが、神がご自分の民にお与えになったメッセージは何だったでしょうか。「主はモーセに言われた、『あなたは、なぜわたしにむかって叫ぶのか。イスラエルの人々に語って彼らを進み行かせなさい』」(出エジプト記14:15)。そうです、これらのただ中で、後退ではなく、前進するべき時だったのです。「神のしもべは、時折、なすべき働きをすることが不可能だと思う。それは、強力で堅固な働きを続ける資金がないからである。ある者は、彼らの所有する物資では、しなければならないと感じることをすべて行うことは不可能ではないかと思う。しかし、もし彼らが信仰をもって前進すれば、神の救いがあらわされ、彼らの努力は必ず成功するのである。」7

言い換えれば、「わたしたちが忠実、謙虚になすべき事をする ならば、主は、結果をもたらしてくださる。神を信じなければなら ない。」⁸

わたしたちが、コロナウイルスやペスト等の世界的で壊滅的な疫病や災害に直面したとき、わたしたちはどのように対処すべきでしょうか。「この民がすべて陰謀ととなえるものを陰謀ととなえてはならない。彼らの恐れるものを恐れてはならない。またおののいてはならない」(イザヤ8:12)。もしわたしたちが神のみ旨のうちにいることを真に信じるならば、生きても死んでも問題ではないのです。「わたしたちは、生きるのも主のために生き、死ぬのも主のために死ぬ。だから、生きるにしても死ぬにしても、わたしたちは主のものなのである」(ローマ14:8)。

恐怖にどのように勝利するか

まず、最初に次のことを決定しなければなりません。わたしたちは何を求めているのかということです。「**まず**神の国と神の義とを**求めなさい**。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」(マタイ:33)。

天の王国は、わたしたちにとって最も重要なことでしょうか。そうであるならば、神がわたしたちをこの地上におかれた目的を果たしている限り、わたしたちがこの罪深い世界でどれだけ長く生きるかは重要ではありません。ステパノの人生は、働きを開始し

た初期の段階で短いものとされた。3ハネの人生は、非常に長いものとなりました。しかし、両者はいずれも自らの働きを成し遂げたため、死を恐れていませんでした。彼らの意志は完全に神のご意志と融合し、彼らは神が目的を達成されることを完全に信頼したのです。

わたしたちが死への恐怖をいだくのは、神のご意志に従う行動をとっていないときです。「もしあなたが心を正しくするならば、神に向かって手を伸べるであろう。もしあなたの手に不義があるなら、それを遠く去れ、あなたの天幕に悪を住まわせてはならない。そうすれば、あなたは恥じることなく顔をあげることができ、堅く立って、恐れることはない」(ヨブ11:13-15)。

そのような状態は、わたしたちが新しく生まれ、わたしたちを 導く天の力を得た時にはじめて可能です。「すべて神の御霊に 導かれている者は、すなわち、神の子である。**あなたがたは再 び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく**、子たる身 分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは 『アバ、父よ』と呼ぶのである」(ローマ8:14, 15)。

人々を、彼らの人生によって束縛したのは、死への恐れであったことを思い出してください。つまり、わたしたちが生まれ変わって神の子となれば、もはや死ぬことを恐れません。そうです、わたしたちは天の御父をとても愛しているので、人生に対するわたしたちの見方全体が変わったのです。「愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。恐れには懲らしめが続く、かつ恐れる者には、愛が全うされていないからである」(ヨハネ第一4:18)。

死への恐怖が奴隷制の原動力です。戦争、何らかの災害、疫病、飢餓、迫害により死ぬことへの恐怖は、どれも同じです。不必要に迫害の中に入って行くべきではないことは事実です。戦争があるときには、逃げるように命じられています。病気が蔓延したときは、利用可能なすべての治療法、特に自然療法を使用する必要があります。しかし、何らかのかたちで危険な状況に陥ったとき、わたしたちは何を懸念すべきでしょうか?「そこでわたしの友であるあなたがたに言うが、からだを殺しても、そのあとでそれ以上なにもできない者どもを恐れるな。恐るべき者がだれであるか、教えてあげよう。殺したあとで、更に地獄に投げ込む権威のあるかたを恐れなさい。そうだ、あなたがたに言っておくが、そのかたを恐れなさい」(ルカ12:4,5)。

準備ができたら、どうなるでしょうか。「たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわいを恐れません。あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます」(詩篇23:4)。

神の無限の知恵と憐れみによって、神はわたしたちが苦しむことをお許しになるかもしれないが、決して恐怖を伴いません。「あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない。見よ、悪魔が、あなたがたのうちのある者をためすために、獄に入れようとしている。あなたがたは十日の間、苦難にあうであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう」(黙示録2:10)。

わたしたちは、どのようにすればこの災害の時代に、再び恐れることなく生きることができるでしょうか?「この幻はなお定められたときを待ち、終りをさして急いでいる。それは偽りではない。もしおそければ待っておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。見よ、その魂の正しくない者は衰える。しかし**義人はその信仰によって生きる**」(ハバクク2:3,4)。

この信仰は単なる信念以上のものです。「信頼がなくても 信念は存在するかもしれないが、信仰がなければ、信頼から 生じる確信は存在しない。キリストの救いの力を知るようになっ たすべての罪人は、経験を積むにつれて、この信頼をより強く あらわすようになる。」⁹

わたしたちは個人として、また民として、この先のあらゆる困難な時代を乗り越えるためのこのような信仰をもっているでしょうか?今日のわたしたちの生活の中で、主が弟子たちの祈りに答えてくださいますように。「使徒たちは主に『**わたしたちの信仰を増してください**』」と言った(ルカ17:5)。

- 1. 各時代の大争闘下巻396,397
- 2. 教会への証6巻408
- 3. SDAバイブル・コメンタリ[E・G・ホワイト・コメント]7巻983
- 4. レビュー・アンド・ヘラルド1889年1月1日
- 5. 初代文集350
- 6. 各時代の大争闘上巻380, 下巻162
- 7. 患難から栄光へ下巻38
- 8. Iレン・G・ホワイト1888年原稿71
- 9. セレクテット・・メッセーシ、3巻192

大路をまっすぐにせよ

古代においては、王や同様の高い権威を持つ人物が他国 に重要な旅行をするときはいつでも、通常、信頼できる人々の 一団

が、訪問する地域に事前に派遣されました。その目的は、彼らの王と王の諮問者に安全と成功を確保するために、訪問する 地域の道路や環境を確認することでした。

今日、当局は同様のことを実施しているが、その方法はより洗練されています。国王や大統領は、会議を開催する前に、訪問先の国について必要なすべての情報を事前に有しています。

宇宙の王であられるイエスが、わたしたちの王として地上に来られる前に、人々が愛する王を迎えるための準備がどのようなものであるかを確認するために、天の天使たちの一団が事前に地球に来ました。彼らはとても失望しました。イスラエルの首都エルサレムでは、期待されていた真の王の誕生を人々および彼らの指導者たちが喜んでいることについて目に見える兆候はありませんでした。司祭や宗教指導者たちはすべての預言の巻物を手にしていまが、そのすばらしい出来事についてはまったく知りませんでした。

天使たちが悲しいニュースを携えて天国に戻ろうとしていたとき、ベッレヘムの平原でメシヤの到来に関する預言について語り合っている羊飼いの小さなグループを見つけました。天使たちは彼らに、王様がいやしい場所でお生まれになったという良い知らせを伝えました。

すぐに、真心からの羊飼いたちは、飼い葉の中イエスがおられる場所を訪れ、人々に良い知らせを広め始めました。

遠く離れた異教の地からやってきた、星と預言に関する忠実な研究者たちの別の一団は、天の王はすでに誕生していると結論づけました。彼らは、来るべきメシヤに関するバラムの預言を知っていました。「わたしは彼を見る、しかし今ではない。わたしは彼を望み見る、しかし近くではない。ヤコブから一つの星が出、イスラエルから一本のつえが起り、モアブのこめかみと、セツのすべての子らの脳天を撃つであろう」(民数記24:17)。

それは通常の星ではありませんでした。それは、ベッレヘム の羊飼いの前に現れたのと同様に、遠い場所にいる明るい天 使たちの集団によって形成されていました。

東方から来た高貴な旅人たちは、生まれたばかりの王に会うために長い旅をしてきました。ついに彼らはエルサレムに到着しました。彼らもまた、神なる王の到着により、楽しい雰囲気に遭遇することを期待していました。彼らもまた非常にがっかりしました。エルサレムに到着した彼らは、ヘロデ王に招待されました。ヘロデ王は、彼らを友好的に迎えるふりをし、イエスを見つけたらすぐに詳細について正確な情報を提供するように求めました。

へロデは、問題となっている預言を見つけるようにユダヤ人の司祭に要求しました。彼らの研究の結果、彼らは、ミカの預言に従って、ベツレヘムでキリストが生まれることを王に知らせました。「しかしベツレヘム・エフラタよ、あなたはユダの氏族のうちで小さい者だが、イスラエルを治める者があなたのうちからわたしのために出る。その出るのは昔から、いにしえの日からである。」(ミカ 5:2)。

ごくわずかな例外を除いて、国民全体がイエスを歓迎する 準備ができていませんでした。わたしたちが確認することができ るのは、羊飼い、東方の博士、エリザベス、ザカリヤ、シメオン、 その他ごく少数の人々です。指導者たちは、彼らの国としての 誇りに従ってメシヤに関する預言を解釈しました。そして、キリ ストがその国の国民のところに来られたとき、彼らはキリストを拒 絶しました。

先駆者

イザヤの預言は、先駆者が来て、救い主の到来について 人々に警告し、彼のために道を準備することを明らかにしてい ました。「呼ばわる者の声がする、「荒野に主の道を備え、さば くに、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ」(イザヤ書 40:3)。

マラキには、主の到来に備えて人々が準備することができる ようにするために来る神の代理人に関して別の預言があります 。「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである」(マラキ4:5,6)。

この預言の成就は、新約聖書で明確に示されています。 バプテスマのヨハネは、ユダヤの荒野で宣べ伝えたとき、自 分の使命について次のように宣言した。「神の言が荒野でザカ リヤの子ヨハネに臨んだ。彼はヨルダンのほとりの全地方に行っ て、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えた。そ れは、預言者イザヤの言葉の書に書いてあるとおりである。す なわち『荒野で呼ばわる者の声がする、

「主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ」。

すべての谷は埋められ、すべての山と丘とは、平らにされ、曲ったところはまっすぐに、わるい道はならされ、人はみな神の救を見るであろう』」(ルカ3:2-6)。

エリヤのメッセージ

神は、バプテスマのヨハネというかたちで、イエスの最初の到来への道を準備するために特別な使者を送られました。彼はエリヤを代表し、忠実に使命を果たしました。同様に今日、主はエリヤを代表する使者を通して、最初の来臨ではなく、イエスの再臨に人々を備えるように、別の警告を送っておられます

「ヨハネは特別な仕事をするように召された。彼は主の道を 整え、主の道をまっすぐにするという使命を担っていた。主は彼 を預言者とラビの学校には送られなかった。主は、自然と自然 の神について学ばせるために、彼を人間の集まりではなく砂漠 へ連れていかれた。神は彼が祭司や支配者のようになることを 望んでおられなかった。彼は特別な仕事をするように召された 。主は彼にメッセージをお与えになった。彼は祭司や支配者の ところに行って、この福音を宣べ伝えても良いかと尋ねたであろ うか。一否、神は彼を彼らから遠ざけ、彼らの精神と教えに影 響されないようにした。彼は荒野で『呼ばわる者の声がする、「 荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路 をまっすぐにせよ。もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘 とは低くせられ、高底のある地は平らになり、険しい所は平地と なる。こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る。 これは主の口が語られたのである』(イザヤ40:3-5)。これこ そが、わたしたちの民に伝えられなければならないメッセージで

ある。わたしたちは終わりの時に近づいており、メッセージは、 王の大路を整えなさい。石を集めなさい。人々の基準を引き 上げなさいである。人々は目覚めなければならない。今は平 和と安全について叫ぶ時ではない。わたしたちは、『大いに呼ば わって声を惜しむな。あなたの声をラッパのようにあげ、わが民に そのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ。』(イザヤ 58:1)と訓告されている。」¹

わたしたちの使命は正確に何か?

「この時代、キリストが天の雲に乗って再臨される直前に、神は、主の大いなる日に人々が立つ準備をさせる人々を召しておられる。まさにヨハネがしたような働きが、この終わりの日になされることになっている。主はご自身が選ばれた器を通して、ご自分の民にメッセージを与えておられる。そして、このお方はすべての人がご自分の送られた訓告と警告に注意を払うように望んでおられる。キリストの公の働きに先行したメッセージは『悔い改めよ、取税人と罪人よ、悔い改めよ、

パリサイ人とサドカイ人、天国は近づいたからである』というものであった。わたしたちのメッセージは、平和や安全のメッセージではない。キリストがまもなく来られることを信じる民として、わたしたちには『あなたの神に会う備えをせよ』という担うべき確固としたメッセージがある。

わたしたちのメッセージは、ヨハネのメッセージと同じくらい直接的でなければならない。彼は王たちの不義を叱責した。彼の命が危険にさらされていたにもかかわらず、彼は真理が彼の唇で衰えることを決して許さなかった。この時代のわたしたちの働きは、同様に忠実に行われなければならない。…

世界的な背教が間近に迫っているこの時代に、神は使者たちに、エリヤの精神と力によって神の律法を宣言するよう呼びかけておられる。バプテスマのヨハネがキリストの初臨のために民を準備させる中で、十戒に注意を向けさせたように、わたしたちは不確かな音を立てることなく、次のメッセージを伝えなければならない。『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。』預言者エリヤとバプテスマのヨハネの特徴である真剣さをもって、わたしたちはキリストの再臨の道を整えるよう奮闘しなければならない。」²

「しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、 天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその 上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう。このよう に、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到 来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまう。しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい。そして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。栄光が、今も、また永遠の日に至るまでも、主にあるように、アアメン。」(ペテロ第二3:10-14、18)。

「神の賛美と栄光のために彼に従う人々が恵みのうちに成長し、彼らの愛がますます豊かになり、イエス・キリストによる義の実で満たされることは、主の願いである。」3

この働きはどのようになされるべきか?

主の道の準備について記述しているイザヤ書において、聖書は続けて、謙遜な者が高められることと、高められている人々のへりくだりについて説明しています。

「もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ、高底のある地は平らになり、険しい所は平地となる」(イザヤ40:4)。神の民の贖いに関するあらゆる障害は、神のみ言葉を開き、「主はこう仰せられる」という言葉によって取り除かれなければなりません。真の光は輝き出す必要があります。闇が地を覆い、暗黒が人々を覆っているからです。生ける神の真理は、誤りと対比されるかたちで伝えられなければなりません。福音を伝える必要があります。わたしたちには救い主がいて、彼を信じる者が滅びることなく、永遠の命を得ることができるようにするために、ご自身の命を与えてくださったのです。

「神の働きの前進を阻む障害が現れるであろう。しかし、恐れてはならない。全能の王の王であるお方、わたしたちの契約を守られる神は、羊飼いとしての優しさと世話を結合なさる。何ものもこのお方の道を立ちふさぐことはできない。このお方の力は絶対的であり、それは神の民に対するこのお方の約束が確実に成就するという誓いである。このお方は、その働きの前進に対するすべての障害を取り除くことがおできになる。神はあらゆる困難を取り除く手段を持っておられ、神に仕え、神が用いる手段を尊重する人々は救われる。神の善と愛は無限であり、神の契約は不変である。

神の働きの敵の計画は確固として十分に確立されているように見えるかもしれないが、神はそれらの計画のうち最も強

力なものを覆すことがおできになる。わたしたちの信仰が十分に 試され、わたしたちが彼に近づき、彼をわたしたちの相談者にし たことを神がご覧になるとき、神はご自身の時と方法によってこ れをなさるのである。

最も暗い日々、もっとも厳しい状況にあると思われるときにおいても、恐れてはならない。神への信仰をもちなさい。神はご自分のみ旨を実行しておられるのであり、ご自分の民のためにあらゆることを最良の方法でなしておられる。神を愛し仕える人々の力は、日々新たにされていく。神の理解が彼らの奉仕におかれ、彼らが神の目的を実行する際に誤りを犯さないようにする。

神への奉仕において落胆があってはならない。わたしたちの 信仰は、信仰にのしかかる圧力に耐えるのである。神はご自 分のしもべが必要とするあらゆる力を与えることができるし、喜 んでお与えになる。このお方は、ご自分に信頼を置く人々の最 高の期待以上に果たしてくださる。彼らのさまざまな必要が要 求する知恵を彼らにお与えになる。

試みられた使徒パウロは言った、『ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである』(コリント第二 12:9, 10)。

ああ、わが兄弟たちよ、あなたの確信を最初から最後まで つかんでいなさい。神の真理の光が薄れてはならない。わたし たちの世界を覆う誤りの闇をその光が照らさなければならない 。神のみ言葉は、より低いところにいる人々と同様に、地の高 い所にいる人々にも伝えられなければならない。

キリストの教会は、真理を宣べ伝える神の代理人である。 教会は特別な働きをするための力を神から与えられている。も し教会が神に忠実であり、神の戒めに従順であるならば、教 会の中に神の力の卓越性が宿る。もし教会がイスラエルの主 なる神を尊ぶならば教会に立ち向かうことのできる力はない。 教会が自らの誓約に対して忠実であるなら、敵の勢力は旋風 に抵抗しようとするもみ殻と同様、教会を打ち負かすことはで きない。

教会がこの世に対する一切の忠誠を引き払い、キリストの 義の衣をまとうならば、教会の前には明るく栄光に満ちた日の 夜明けがある。 教会員は今、自分たちの背信を告白し、共に押し進む必要がある。わが兄弟がたよ、何一つ、あなたがたが互いに、また神から引き離すようなものが入ってくるのを許してはならない。意見の相違について話すのではなく、イエスのうちにあるがままの真理への愛のうちに団結しなさい。神のみ前へ来て、悪との戦いにおいてあなたが助けを受けるべき理由として救い主の流された血を嘆願しなさい。あなたの嘆願は無駄にはならない。あなたが心からの悔い改めと信仰の完全な確信をもって神に近づくとき、あなたを滅ぼそうとする敵は打ち負かされる。

希望のとらわれ人なるあなたは、主に立ち返りなさい。生ける神であられる神に力を求めなければならない。救うためのこのお方の力とご意志を信じるゆるがない謙遜な信仰を示しなさい。キリストからは、救いのための生きた水が流れている。彼は生命の泉であり、すべての力の源であられる。わたしたちが信仰によってこのお方の力をつかむとき、このお方はすばらしく、最も望みなく失望させるような外観を変えて下さる。このお方はご自分のみ名の栄光のためにこれをなしてくださる。

神は忠実な人々、すなわち信仰や希望を持たない人々に 勇気を語る人々を召しておられる。主がわたしたちを助けて下 さり、わたしたちが互いに助け合い、生きた信仰によって主を証 明することができますように。」⁴

時を知らせる呼びかけ

「主は、過去数年間に行われた率直な証を新たにするよう 求めておられる。彼は霊的生活が新たにされることを求めてお られる。神の民の霊的な精力は長い間休眠していたが、仮死 状態からの復活がなくてはならない。

祈りと罪の告白によって、わたしたちは王の道を整えなければならない。こうするとき、御霊の力がわたしたちにのぞむ。ペンテコステの精力が必要である。それはもたらされる。なぜなら、主はすべてを克服する力として御霊を送ると約束されたからである。

危険な時代が目の前に迫っている。真理の知識を持っている人は皆、目覚め、自分自身、体、魂、霊を神の訓練の下に置かなければならない。敵はわたしたちの軌道に乗っている。わたしたちは目を覚まして、彼を警戒しなければならない。わたしたちは神のすべての武具を身につけなければならない。預言の霊によって与えられた指示に従わなければならない。わたしたちは現代のための真理を愛し、従わなければならない。これに

より、強い欺瞞を受け入れることから救われる。神はみ言葉を通してわたしたちに語ってこられた。彼は教会への証を通して、またわたしたちの現在の義務とわたしたちが占めるべき立場を明らかにする書物を通して、わたしたちに語ってこられた。与えられてきた警告は、教訓に教訓、規則に規則ごとに注意を払わなければならない。それらを無視するとき、わたしたちはどのような言い訳をすることができるだろうか。」5

「王の大路を整えなさい。つまずきの石を取り除きなさい。 ごみを取り除きなさい。こうして神の御霊がわたしたちの中を通ることができるように、そして燃えるともしびのように、神の救いを見ることができるようにしなさい。これこそ、わたしたちの必要である。一つとして罪を隠している余裕はない。わたしたちはここで最も豊かな祝福を必要としている。なぜなら試練がわたしたちに迫っているからである。ほんの少しの間、ほんの短い時間しかない。それから一人一人が厳しく試みられるのである。わたしたちは心の中で神の恵みを日々、更新されることを望んでいる。こうして完全のはしごを一歩一歩のぼり、天国へ、聖潔へ、そして神へと導く道をますます高く上がることができるためである。

わたしたちの集会に神の御霊が入って来られるように。神の 救いを見ることができるように、そして、ここに神の栄光があらわ れるように。互いに欠点を指摘するのではなく、神を賛美する ために、すべての人の声が上がるようにしよう。」6

「この一週間の祈りの間に、主がご自分の民を恵み深く祝福してくださるように。すべての過ちが正され、すべての罪が告白され、天の書物のあなたの名前のところにゆるしが書き込まれるように。すべての教会、すべての家庭の一員がみな主を求め、主の前に自分の魂をへりくだらせよう。可能な限り、わたしたちがふさいできたすべてのごみを干の大路からとりのぞこう。」⁷

- 1. セレクテット・・メッセーシ 1巻410
- 2. ササ、ン・ウォッチマン1905年3月21日
- 3. サインス *・ オフ *・ サ *・ タイムス * 1901年6月12日
- 4. 教会への証8巻10-12
- 5. 同上297, 298
- 6. レビュー・アンド・ヘラルド1905年5月18日
- 7. 同上1890年12月9日

迫る嵐

怒りで熱くなったこの世界、純粋な愛は冷たくなっていく。 わたしたちが見出すことのできる唯一の平安は、いにしえの道にある。

聖書はいのちの道を示す、単なる人の思想はむなしい。 哲学者と人の考えは、悲しみ、欠乏、痛みをもたらす。

今こそ心が純潔で清くなるように主に求めるべき時である。 先にある雲はまもなく見たことがないほどの嵐となって決壊する。

わたしたちはキリストのうちにある思いとこのお方の贖いの愛を必要としている。 なぜなら、先にある生涯をくぐりぬける時、「上からつかんで」いただく必要があるからである!

すべての罪は告白されなければならない―そして、すべての試練に直面するとき、 キリストのために立つよう強くなければならない。わたしたちの口に偽りがあってはならない。

強い敵対勢力に直面するとき、人の精神は悩む傾向がある。 そのとき、主たる懸念は、「自分が安全である」ことを確認することである。

その代わりに、今、神の恵みを必要としている、わたしたちの主を裏切ることがないように一怒る群衆に平安をもって直面し、決してつるぎを抜くことがないように。

わたしたちを傷つける人々を見るとき、彼らが何をしようと イエスがされたように、すべての人を許し、彼らを愛しなさい。

嵐はわたしたちの痛みではない。嵐は、わたしたちが何者であるかを示す。— 内にあるキリストのような信仰を反映しなさい、近い人にも遠い人にも、すべてに。

最も暗い夜苦悩の雲のただ中で輝く光は、 友も敵も愛されるキリストの人々から明々と輝くようになる。

だから、わたしたちが「嵐が迫っている」と考える時、わたしの最大の恐れは、 わたしのためにご自分の命を下さったお方を、わたしが決して悲しませないように。

なぜなら、わたしたちはこのお方の命も死も、このお方のなされたすべてを見た時、 わたしたちの心は喜びの希望のうちに舞い上がるからである。勝利は得られた!